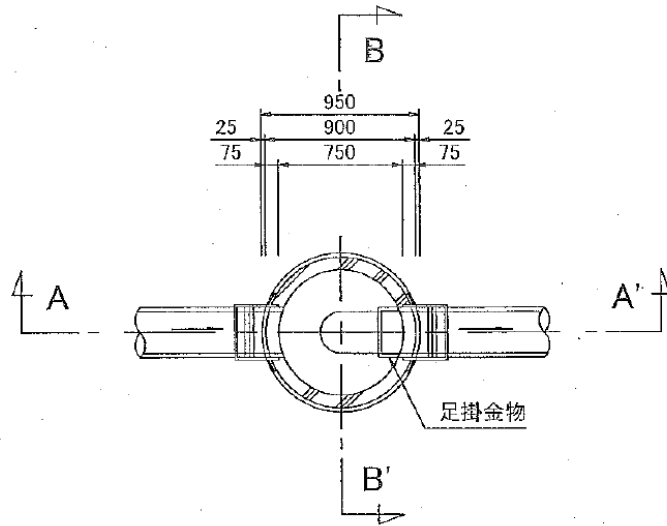
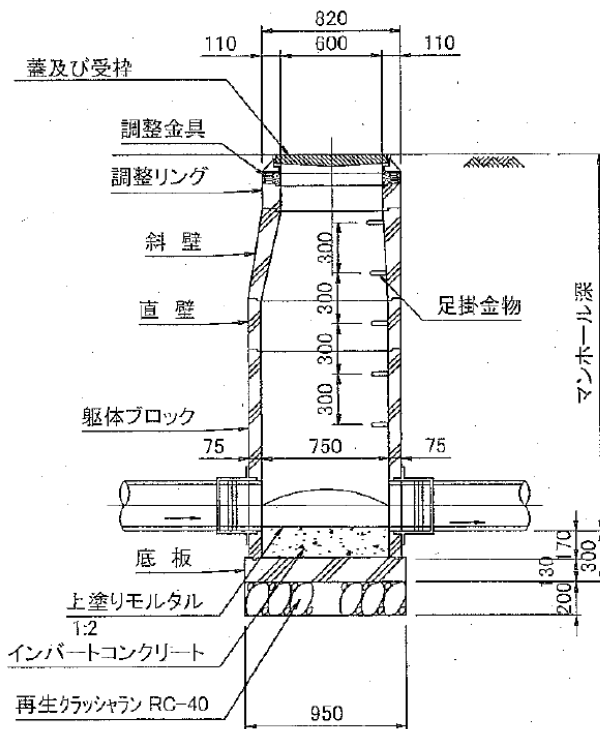


組立0号マンホール標準構造図 縮尺 1:40
(内径75cm)

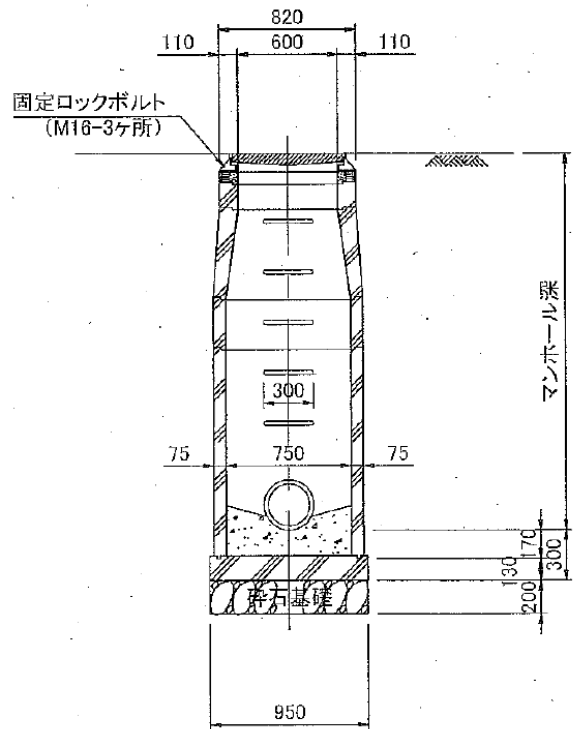
平面図



A-A' 断面図



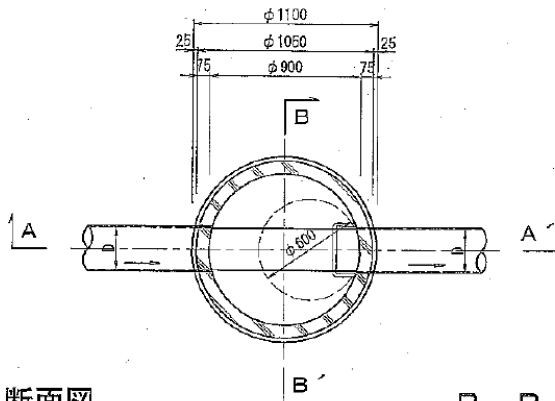
B-B' 断面図



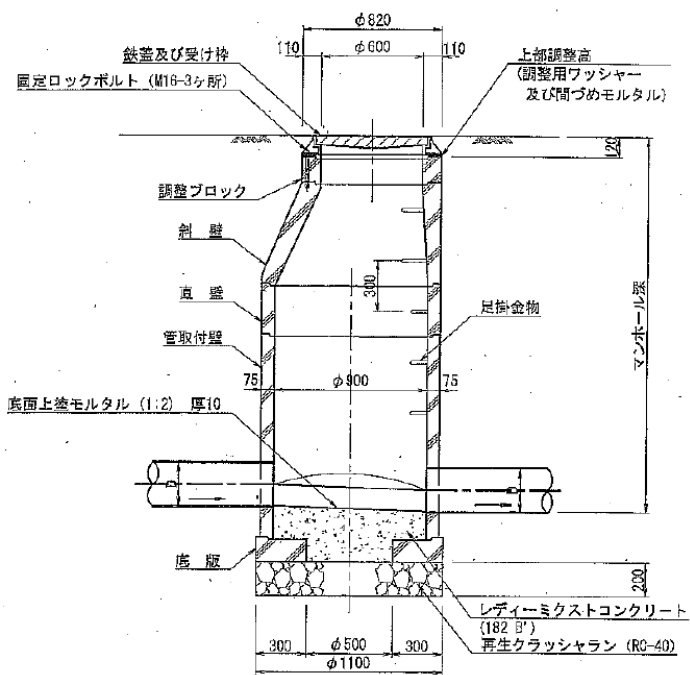
組立1号マンホール標準構造図 縮尺 1:40

(内径90cm)

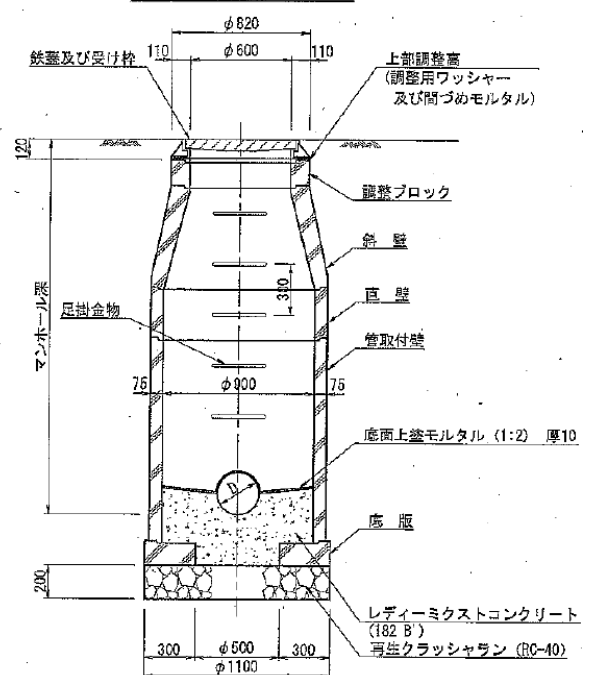
平面図



A-A' 断面図



B-B' 断面図



マンホール施工上の注意事項

【足掛金物の取付位置と間隔】

1 位置について

下流管の内径 400 mm 以下の場合：下流管の上部

下流管の内径 450 mm 以上の場合：下流管に向かって左側

※ただし、流入管（予定管も含む）がある場合は下流に向かって右側または流入管のない側

2 間隔について

通常の間隔は 300 mm、ただし上部と下部は原則として最大 400 mm 以内とする。

(1) 上部とは・・・ 翼栓螺番部の平掛けと、斜壁上部の足掛け金物との間隔

(2) 下部とは・・・ ①直壁最下段の足掛け金物と、下流管の管頂までの間隔（下流管の上に付ける場合）

②直壁最下段の足掛け金物と、インバートまでの間隔（下流管の上に付けない場合）

③足掛け金物の各区分間の許容値は ±10 mm とする。

④この基準は、現場打ちマンホール及び組立マンホールに適用する。

【ロック付転落防止梯子について】

マンホール深が 2.0m 以上の場合は、転落防止梯子を設置する。

【インバートについて】

1 インバートの高さは、下流管径の 1/2 とし最高 500 mm までとする。

2 インバートの縦断勾配は、下流管勾配とする。

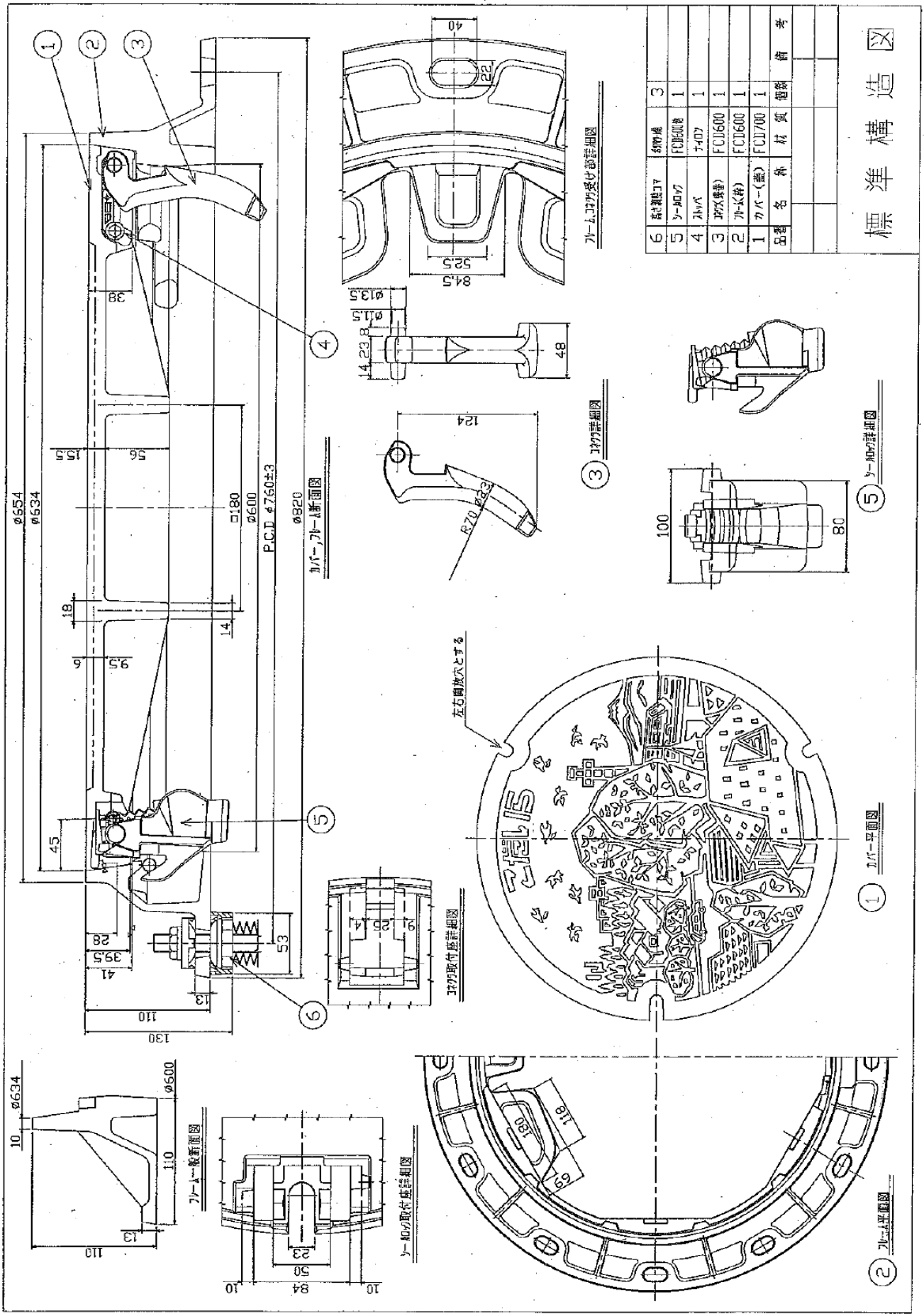
3 インバートの幅は、下流側幅に合わせ均一とする。

4 起点マンホールのインバートは、マンホール内の端部までストレートとする。

【副管について】

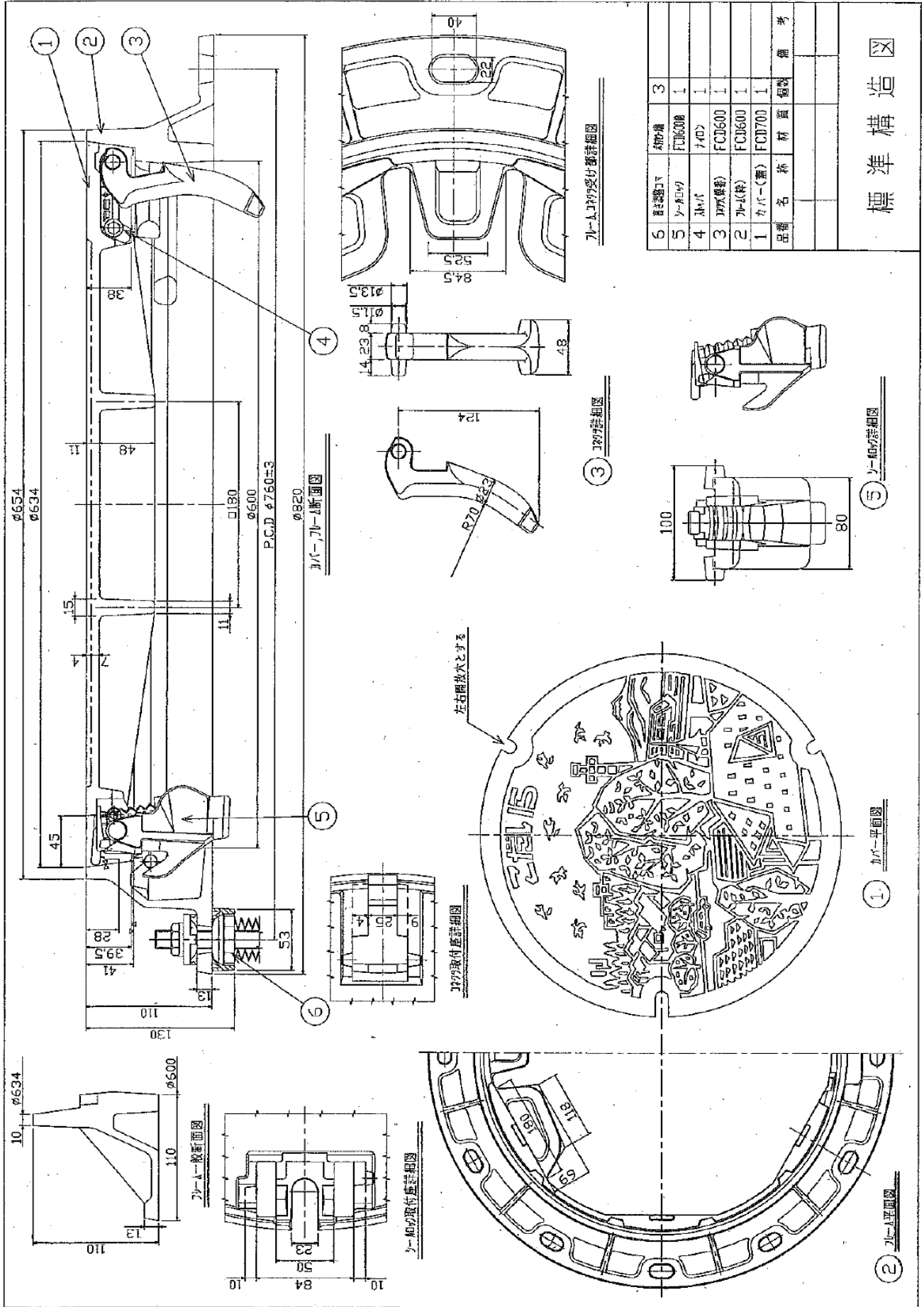
副管は本管管底差（上流と下流の管底差）が、600mm 以上の場合に設置する。

マンホール鉄蓋・鉄枠標準構造図 (合流・T-25)

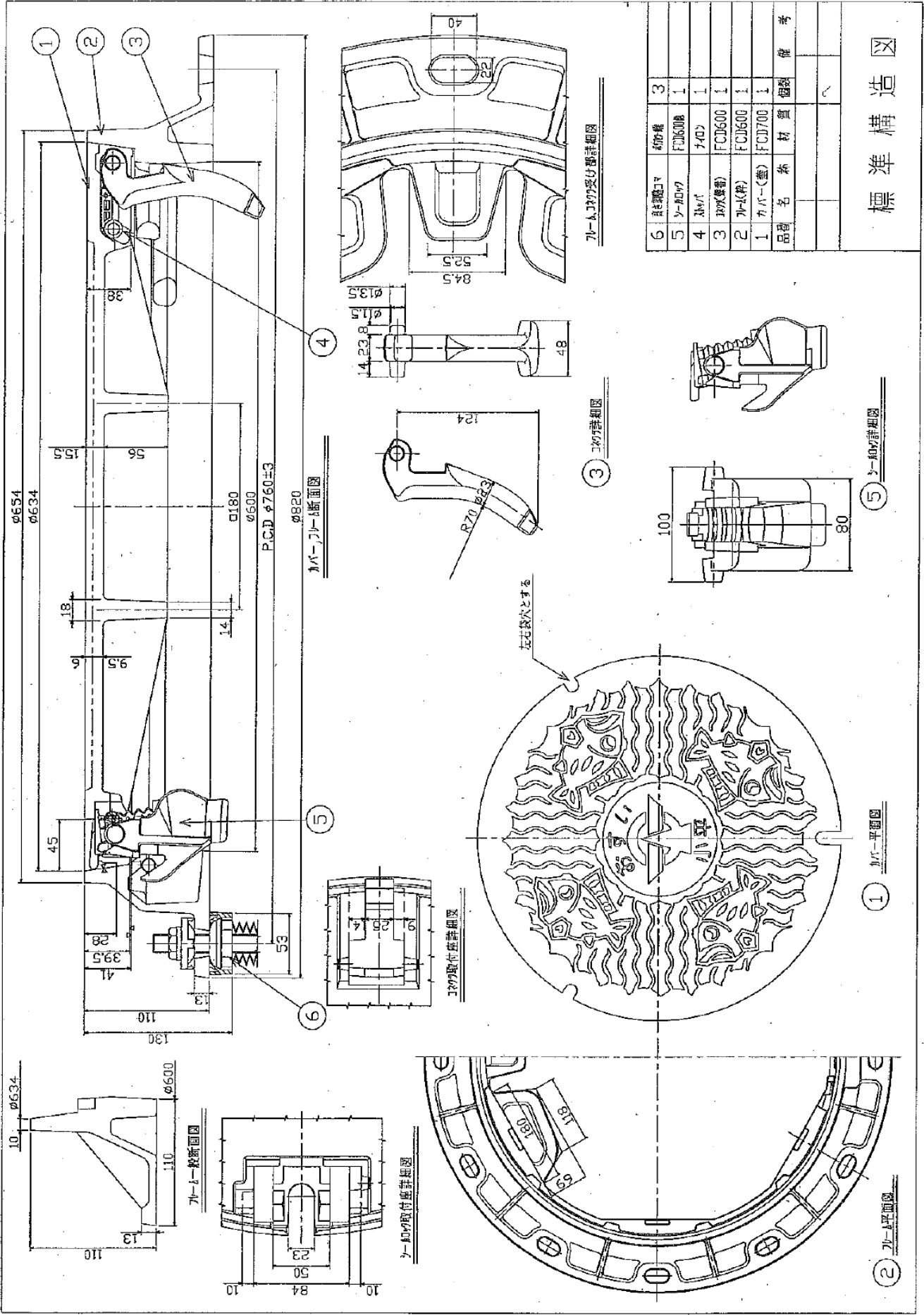


標準構造図

マンホール鉄蓋・鉄枠標準構造図 (合流・T-14)



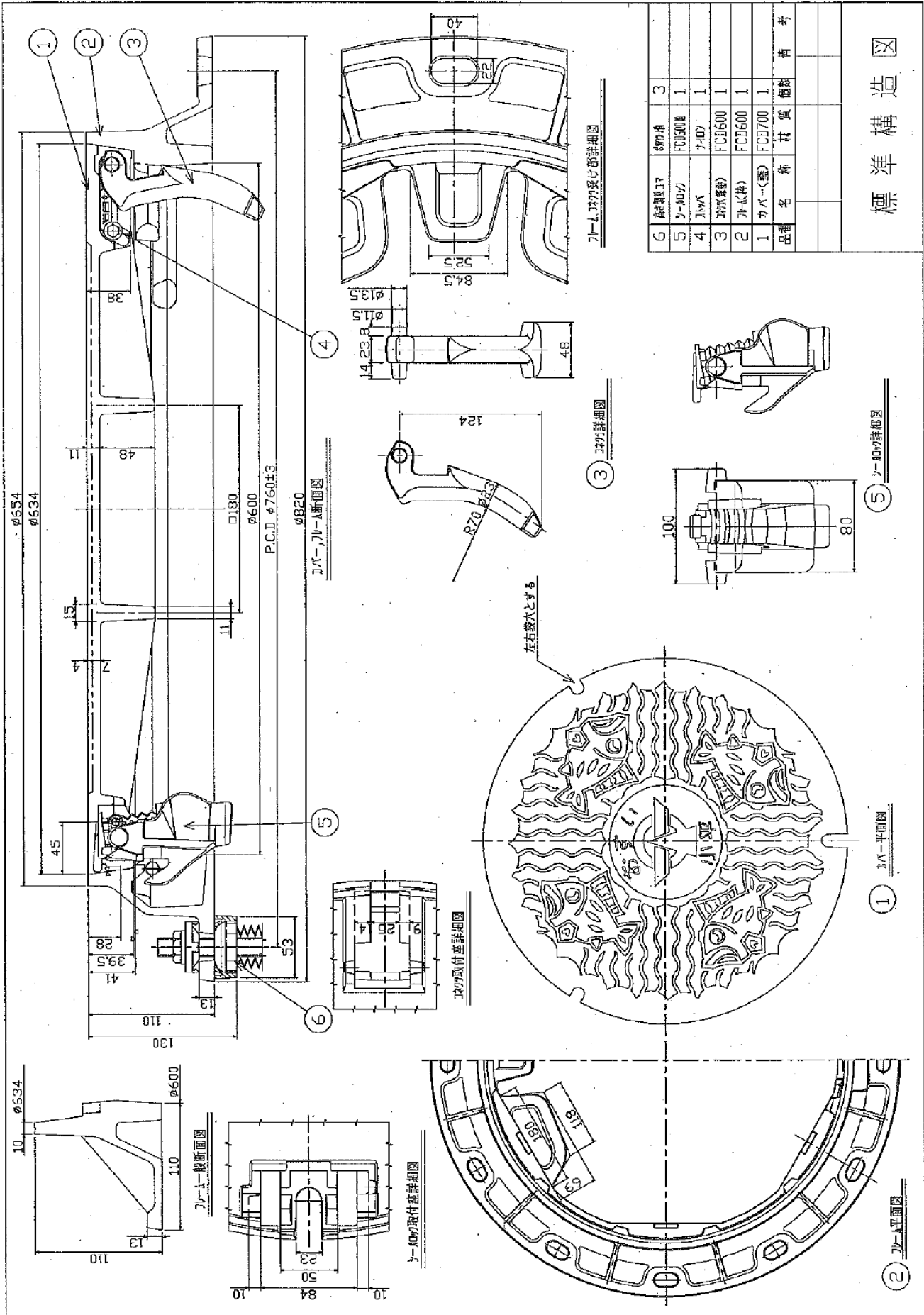
マンホール鉄蓋・欵枠標準構造図 (分流・T-25)



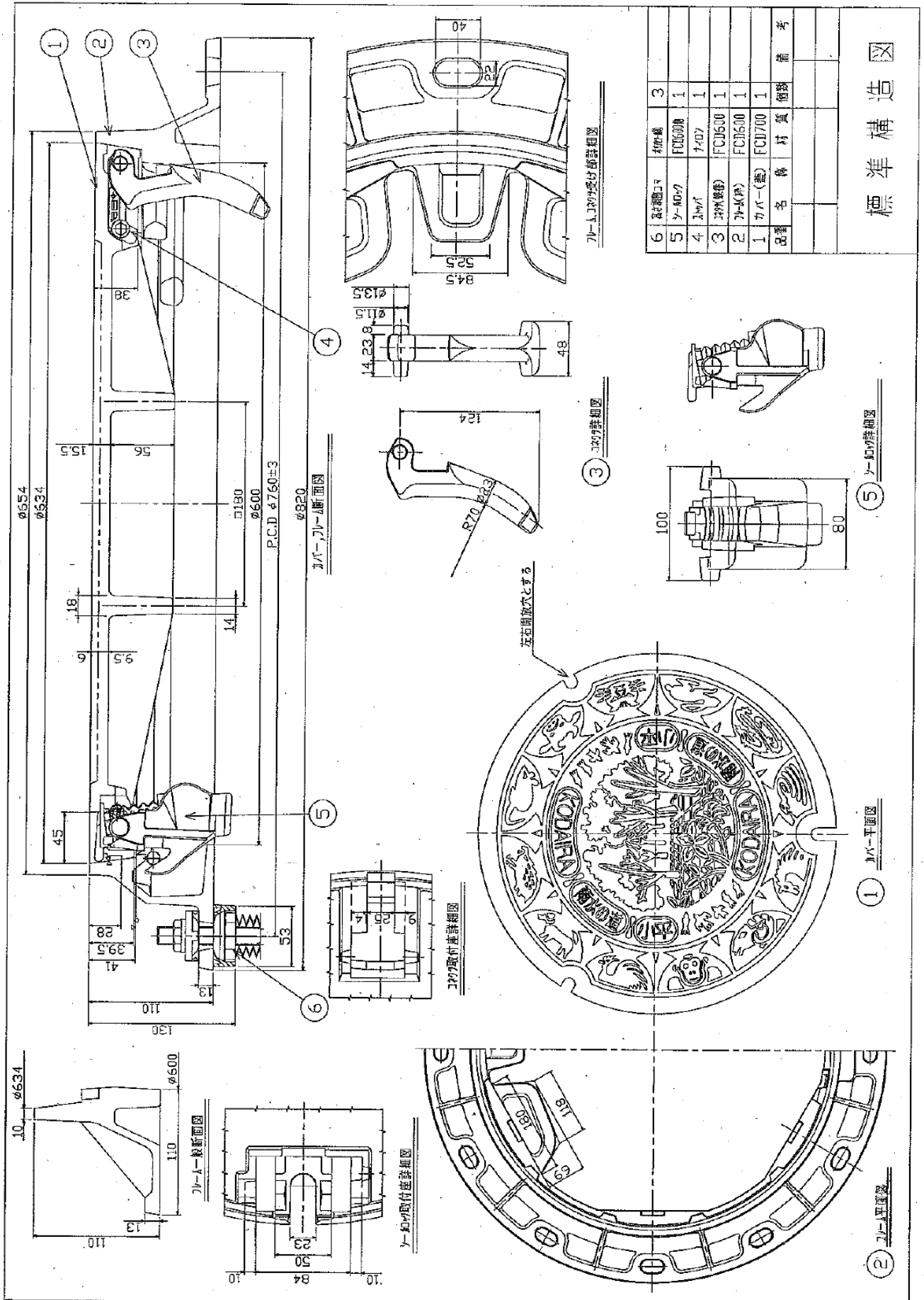
6	鉄板	寸加幅	3
5	マンホール	FCD600	1
4	マンホール	FCD	1
3	マンホール	FCD600	1
2	マンホール	FCD600	1
1	マンホール	FCD700	1
品名 名称 材質 個数 備考			

標準構造図

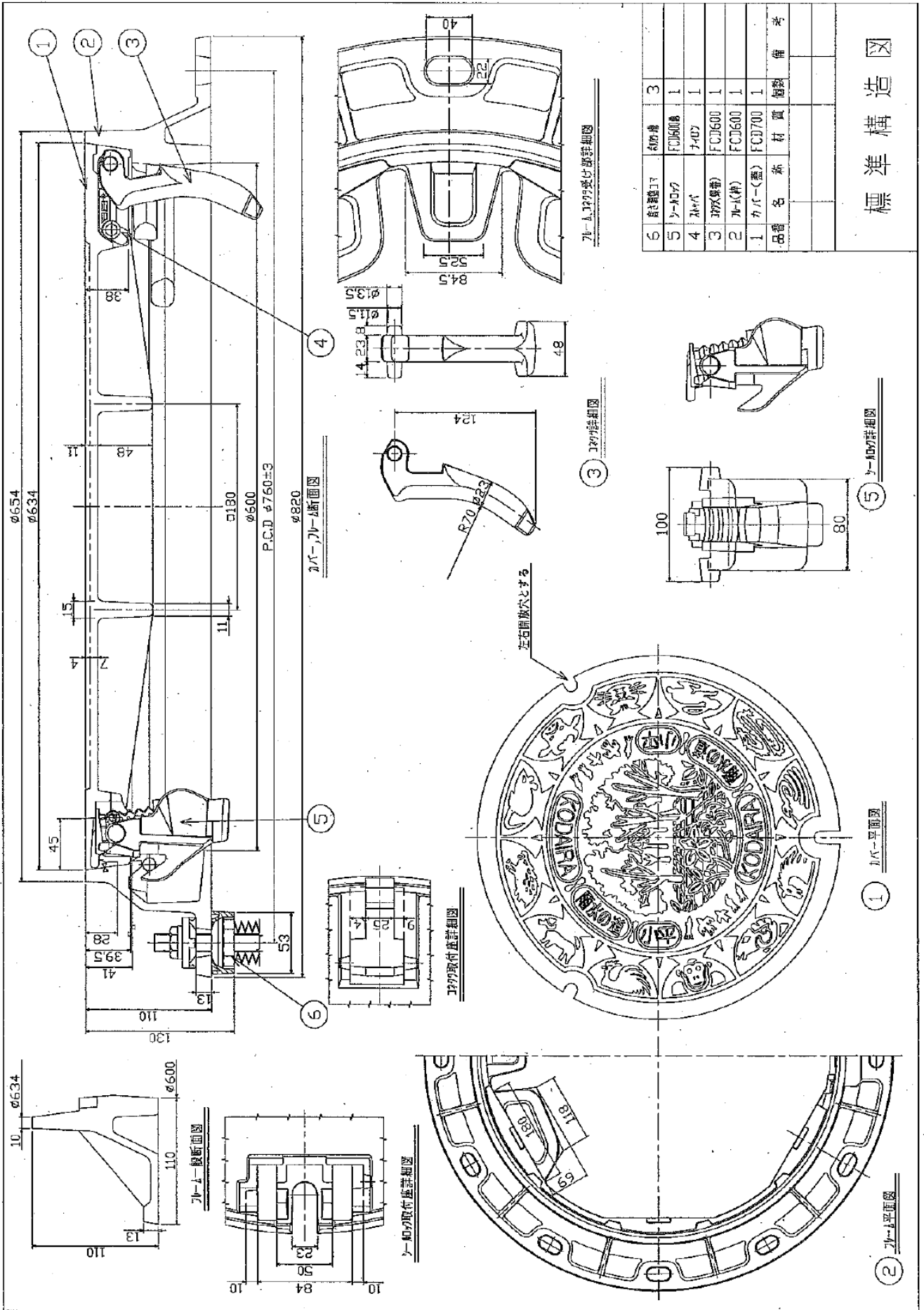
マンホール鉄蓋・鉄枠標準構造図 (分流・T-14)



マンホール鉄蓋・鉄枠標準構造図（公共雨水・T-25）

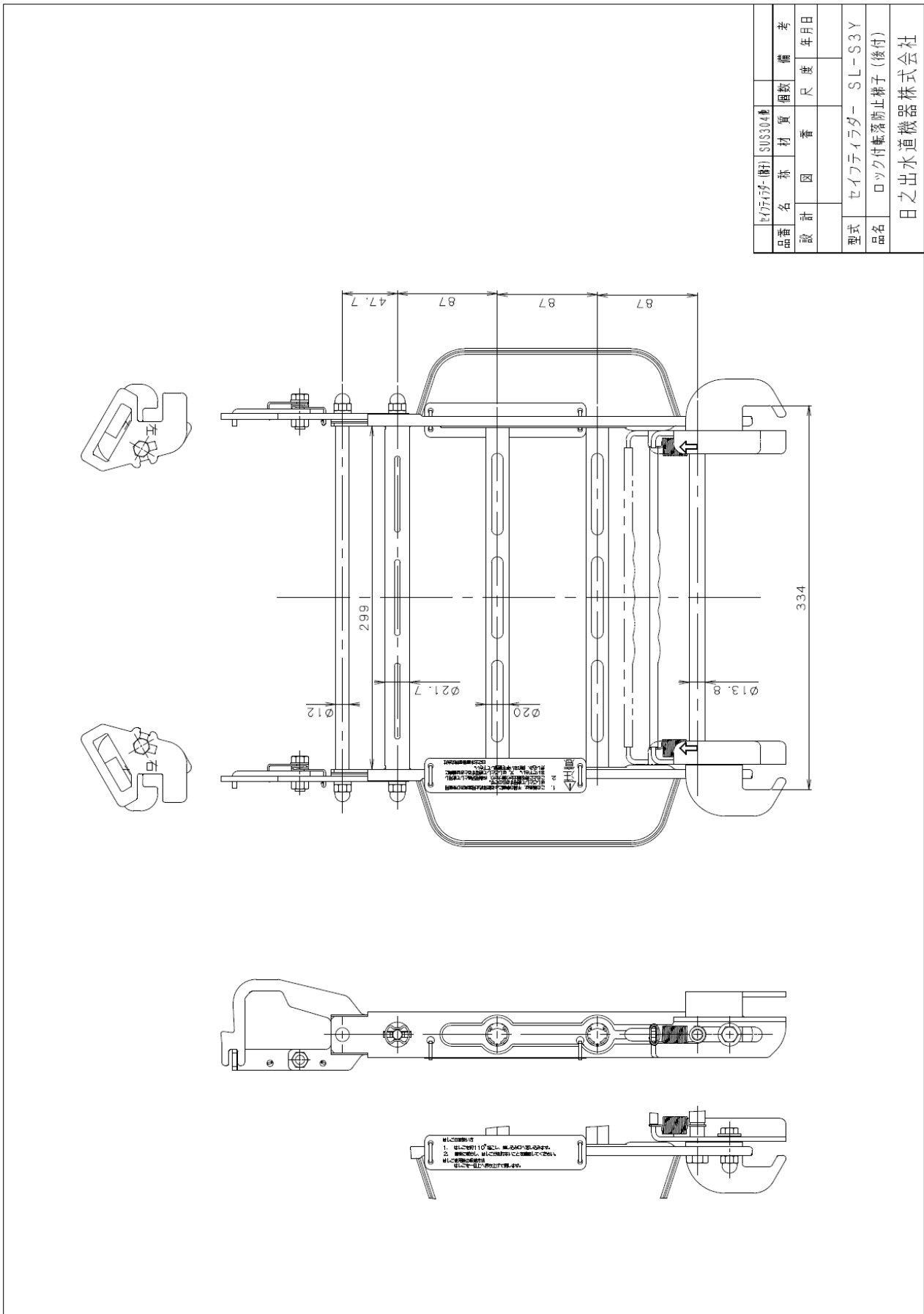


マンホール鉄蓋・鉄枠標準構造図 (公共雨水・T-14)



品番	名称	材質	個数	備考
1	カバー(蓋)	FCJ700	1	
2	枠(枠)	FCJ600	1	
3	枠取付部	FCJ600	1	
4	枠取付部	FCJ600	1	
5	枠取付部	FCJ600	1	
6	枠取付部	FCJ600	3	

標準構造図

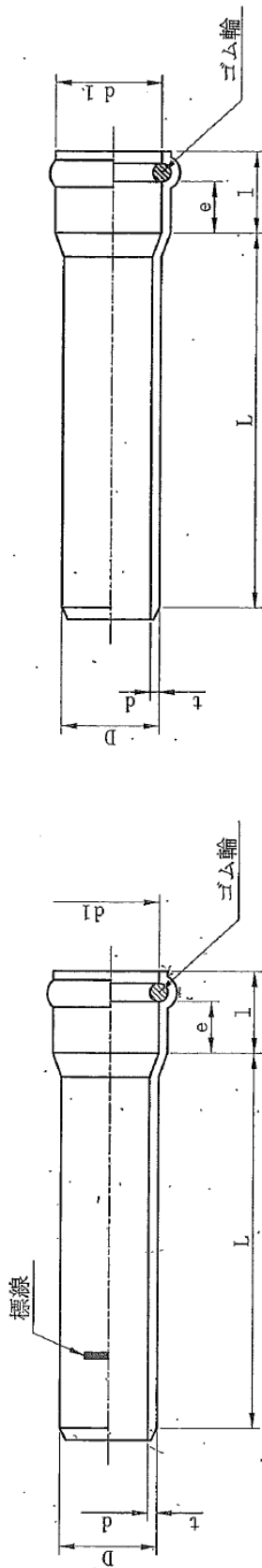


硬質塩化ビニル管 (VU) ゴム輪受口片受直管詳細図

(JIS K6741、JSWAS K-1)

本管形 (略号 SRA)

取付管形 (略号 SRB)



受口形状	呼び径	内径 d	長さ		外径		厚さ		受口		参考質量 Kg/		
			L	許容差	D	許容差	t (最少)	許容差	受口内径	受口長さ			
本管形 SRA	200	202.0	4,000	±15	216.0	±0.7	6.5	+1.0	216.9	54	185	27.8	
	250	250.2			267.0	±0.9	7.8	+1.2	268.1	59	205	41.3	
	300	298.2			318.0	±1.0	9.2	+1.4	319.3	62	225	58.4	
	350	347.6			370.0	±1.2	10.5	+1.4	371.5	67	240	77.3	
	400	394.8			420.0	±1.3	11.8	+1.6	421.7	72	260	99.3	
	450	441.8			470.0	±1.5	13.2	+1.8	471.9	77	285	125.3	
取付管径 SRB	500	488.8	800 4,000	±15	520.0	±1.6	14.6	+2.0	522.1	82	305	154.2	
	600	591.6			630.0	±3.2	17.8	+2.8	633.8	93	355	233.2	
	150	154			165	±0.5	5.1	+0.8	166.0	58	108	3.7	
	200	202			216	±0.7	6.5	+1.0	218.0	69	126	16.2	
						±10							6.4
						±15							

注1 ゴム輪の形状及びゴム輪周辺部の形状は規定しない。

注2 ゴム輪の品質は、JIS K6353(水道用ゴム)に規定するI類Aに適合したもおを使用する。

注3 受口内径d1は、直角2方向以上の内径測定値の平均値とする。

注4 外径Dとは、任意箇所における相互に等間隔な2方向以上の外径測定値の平均値をいう。

注5 管を切断して使用する場合は、硬質塩化ビニル(VU)プレーンエンド直管詳細図に掲載した面取りを行うこと。

硬質塩化ビニル管ソケット標準取付図 (JIS K 6741、JSWAS K-1)

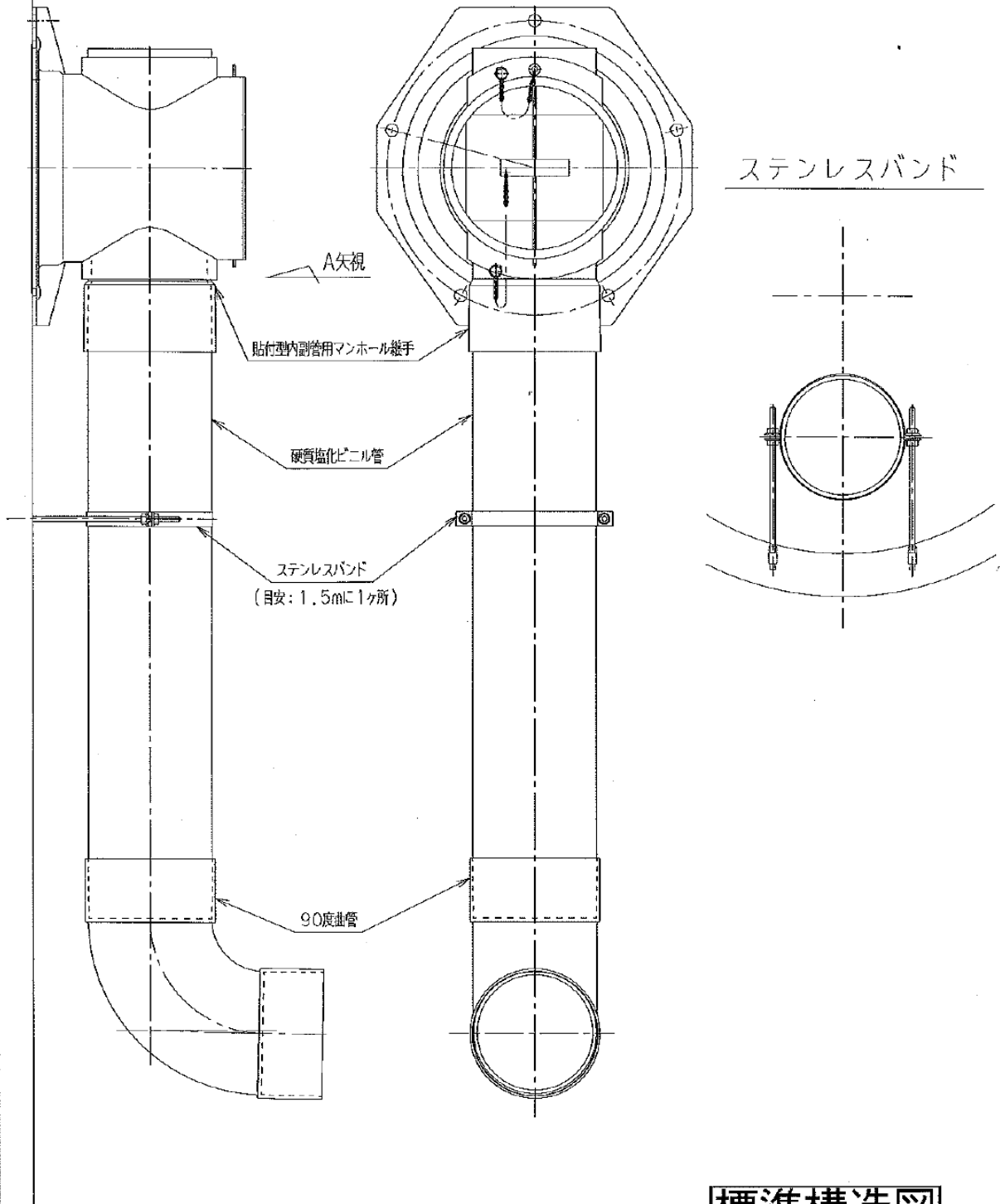
		本管が陶管または鉄筋コンクリート管の場合		本管が硬質塩化ビニル管の場合	
		① 管に穿孔して割孔して取り付ける場合		② 枝付管の場合 (陶管)	
取付角度 60°の場合					
取付角度 90°の場合					
接合詳細 (参考)					

内副管取付構造図

1号UFM250×200

縦断面図

A矢視図

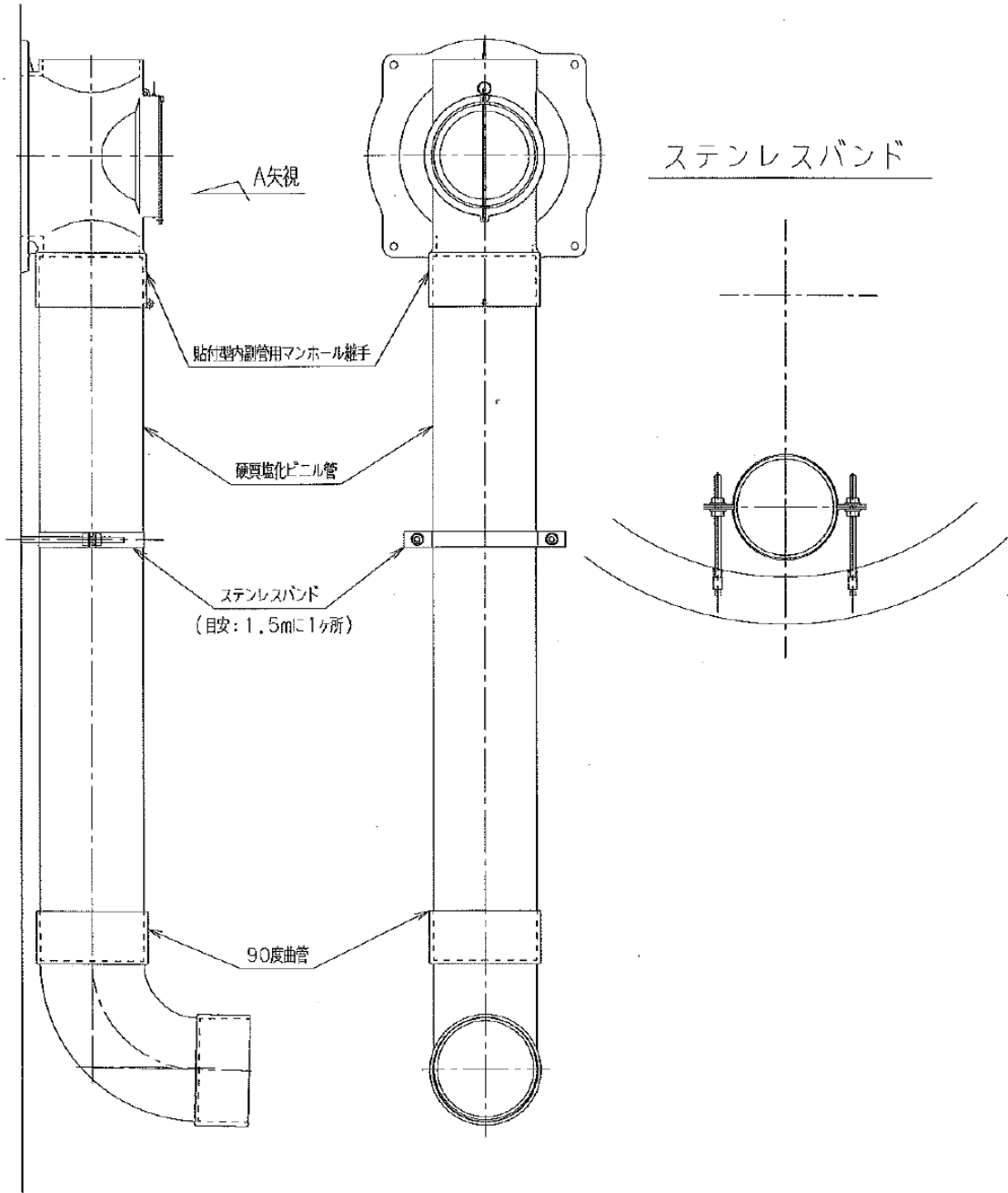


内副管取付構造図

1号UFM200×150

縦断面図

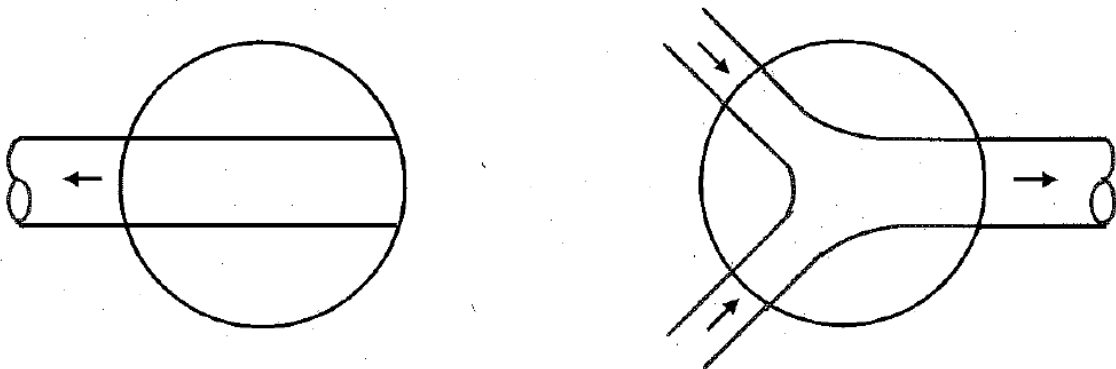
A矢視図



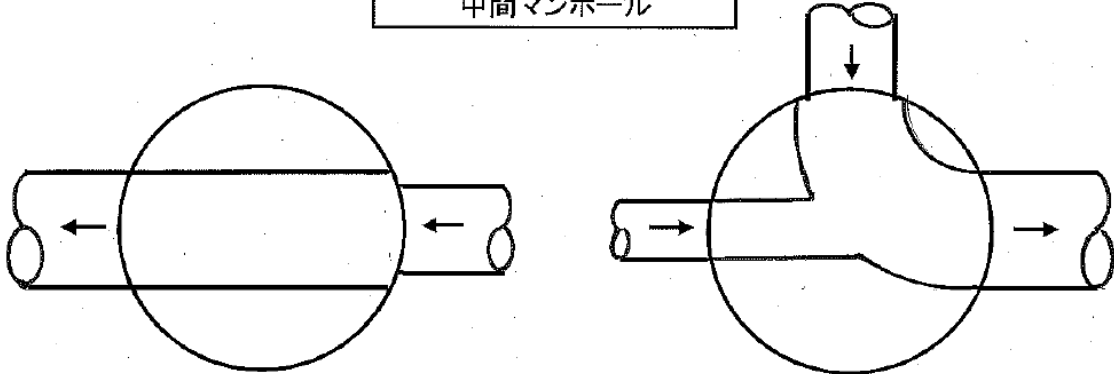
標準構造図

マンホールインバート施工標準図

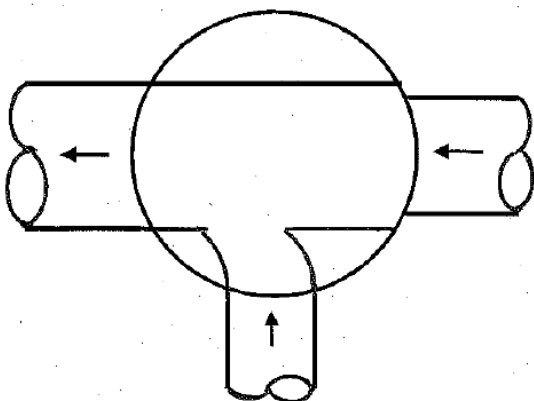
起点マンホール



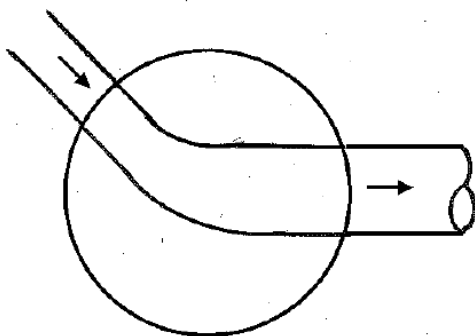
中間マンホール



会合マンホール



起点マンホール

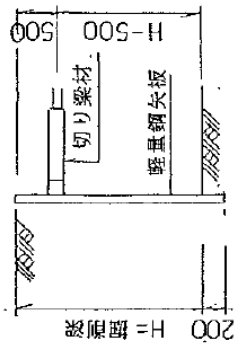


インバート施工注意点
 ※ ラップ施工は起点マンホールの取付管のみ施工可
 ※ 中間マンホール等では、流量の大きい方に下流管径幅でのインバートを合わせる
 足掛金物の設置位置
 ※ $\phi 400$ 以下は下流管上部、 $\phi 450$ 以上は下流に向かって左側
 ただし、流入管がある場合は適宜の位置に設置する

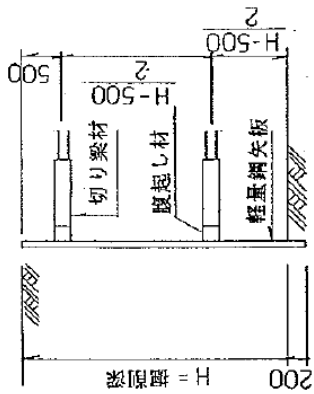
山留工標準図

軽量鋼矢板建込み

柵高 1.7 ~ 2.2



柵高 2.3 ~ 3.7

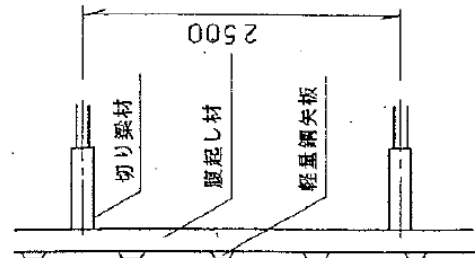
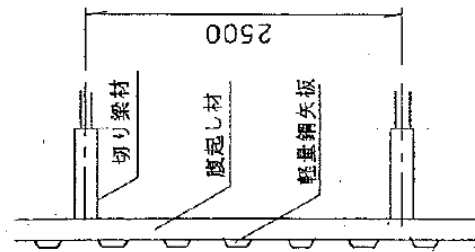
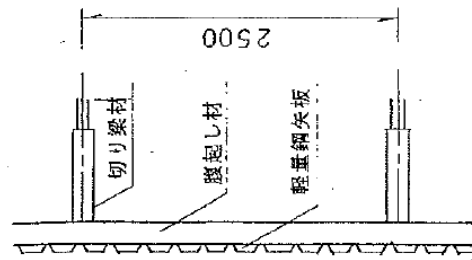
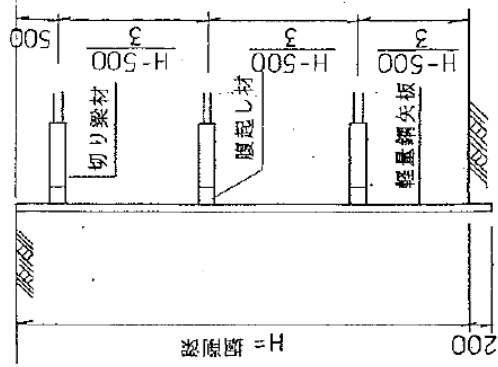


A 型

B 型

C 型

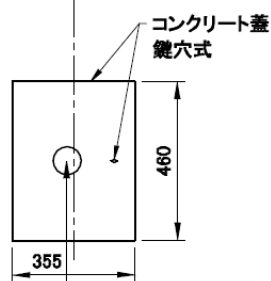
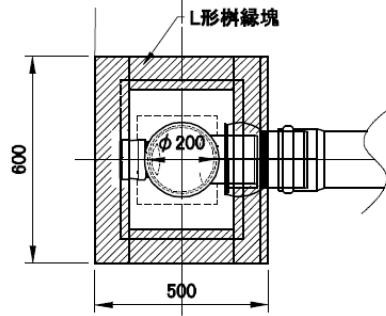
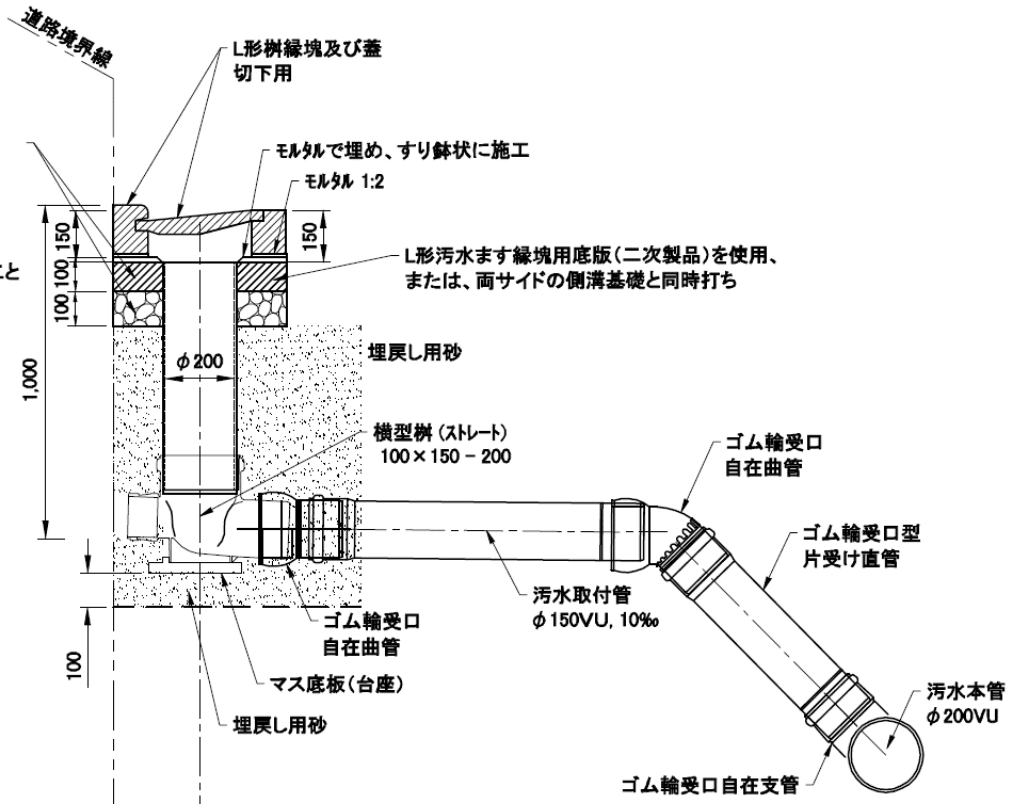
柵高 3.8 ~



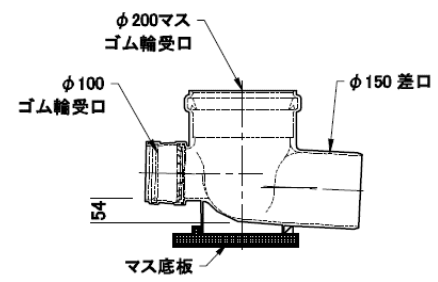
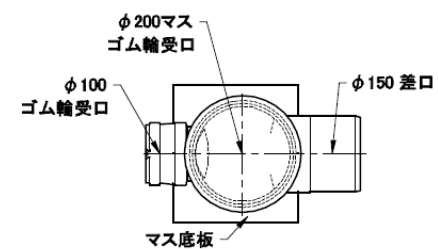
L形用公共汚水ます標準図 合流式(小口径ます用)

A4 : S=1/20

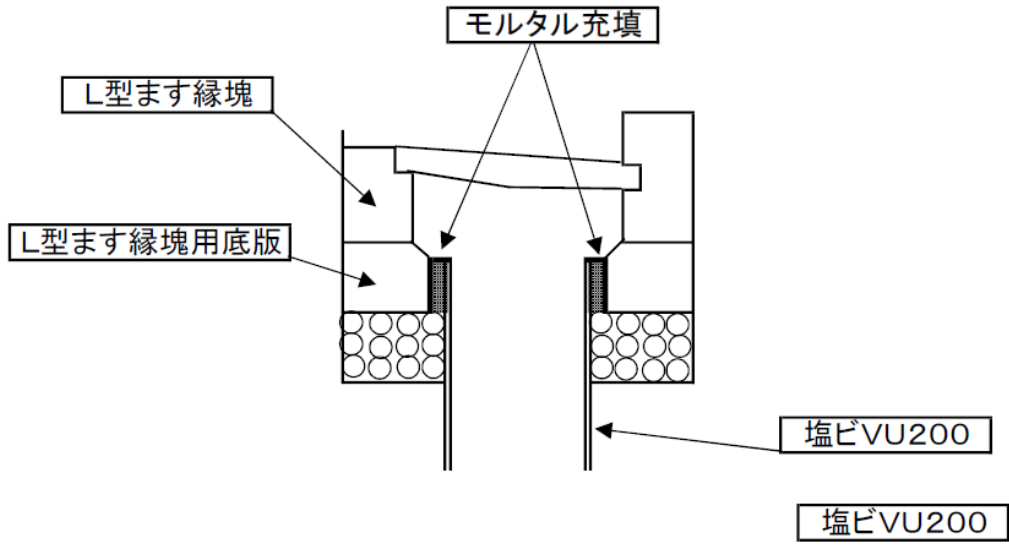
複数台の出入りがある
場所(駐車場)等は、
L形側溝切り下げ部と
同様に基礎コンクリート
・基礎碎石の厚さを
それぞれ200mmとすること



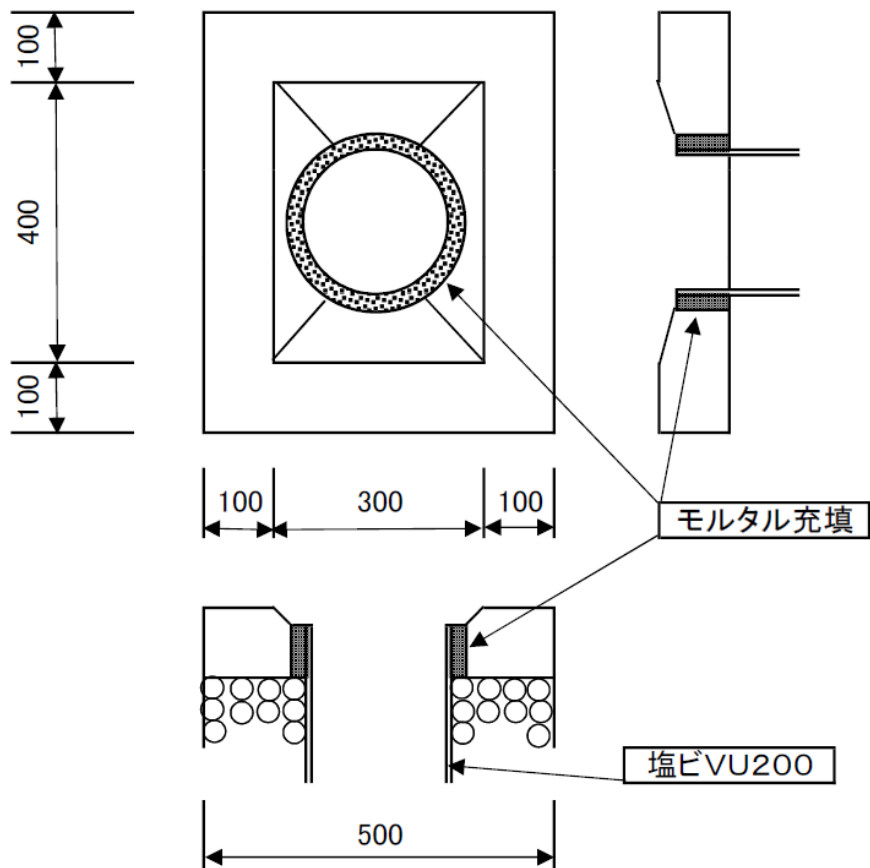
横型樹(ストレート) 100×150-200



縁塊底板部仕上(合流用)

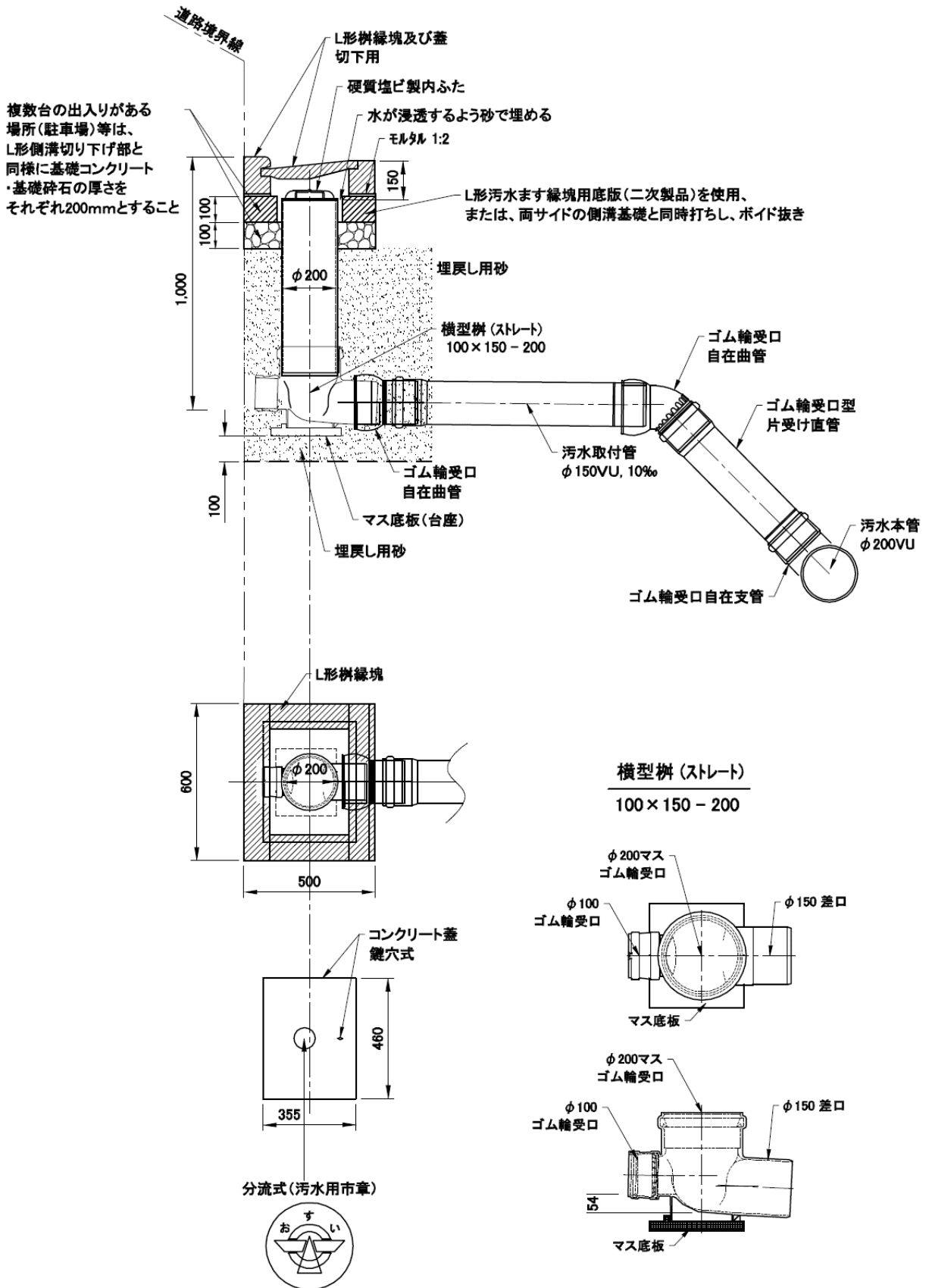


L型ます縁塊用底板

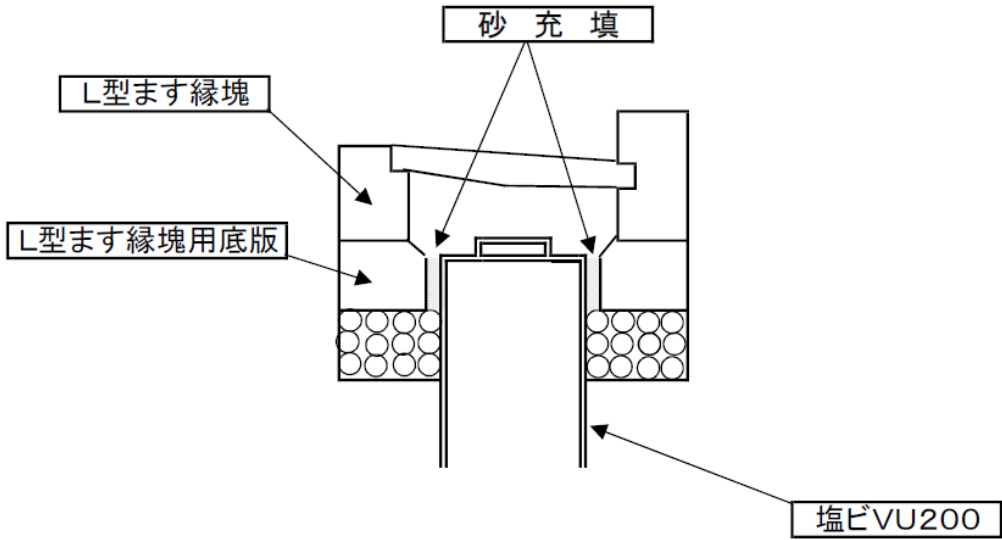


L形用公共汚水ます標準図 分流式(小口径ます用)

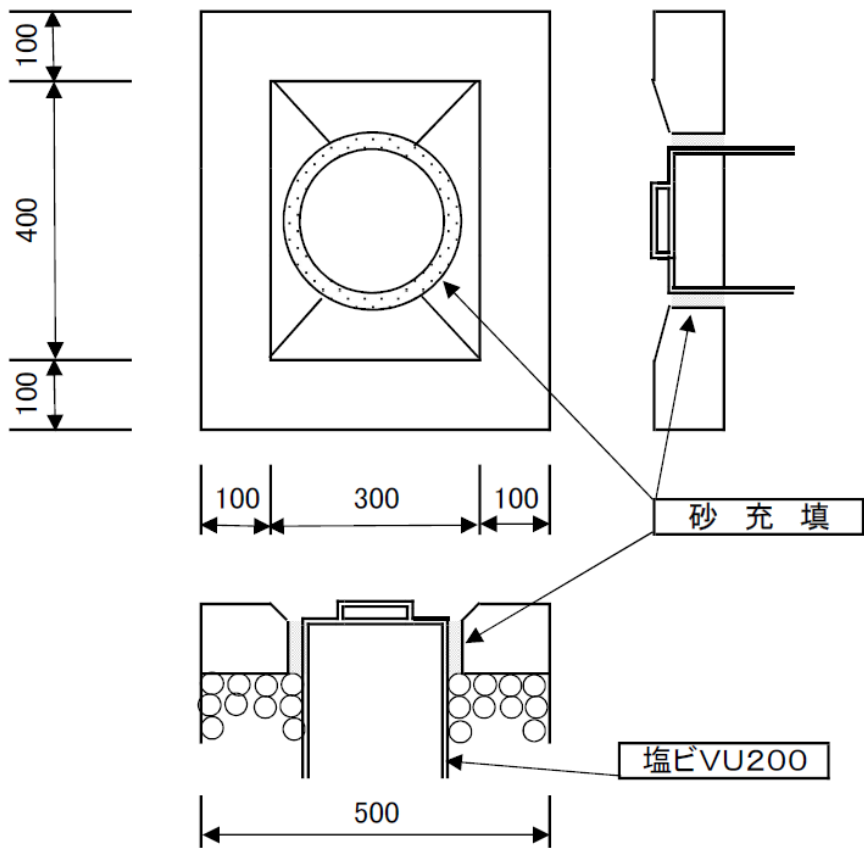
A4 : S=1/20



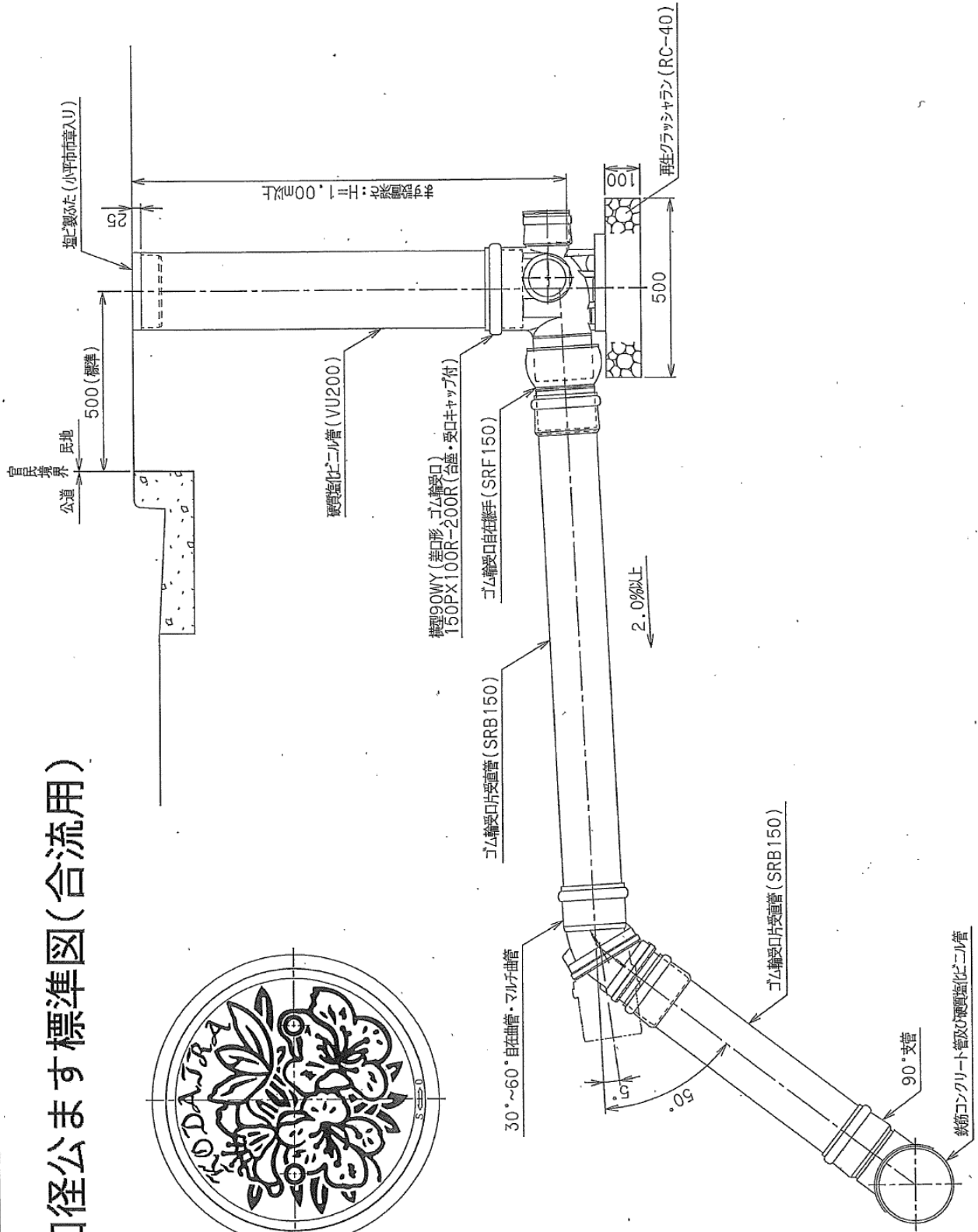
縁塊底版部仕上(分流用)



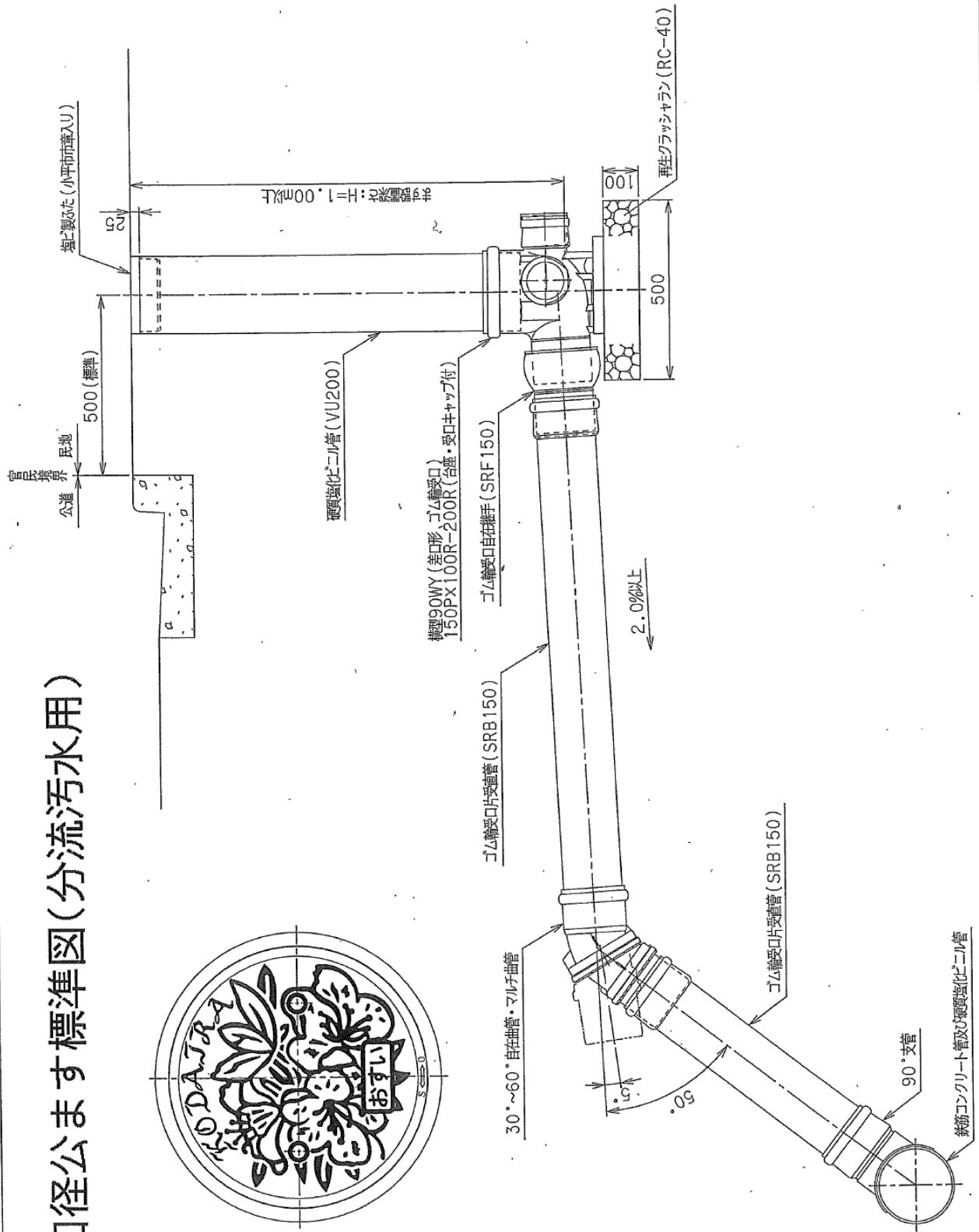
L型ます縁塊用底版



小口径ます標準図(合流用)

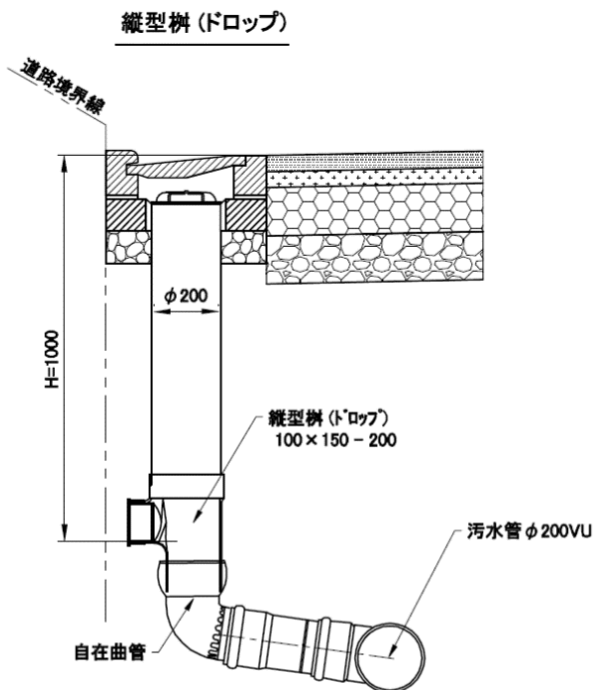


小口径公ます標準図(分流汚水用)

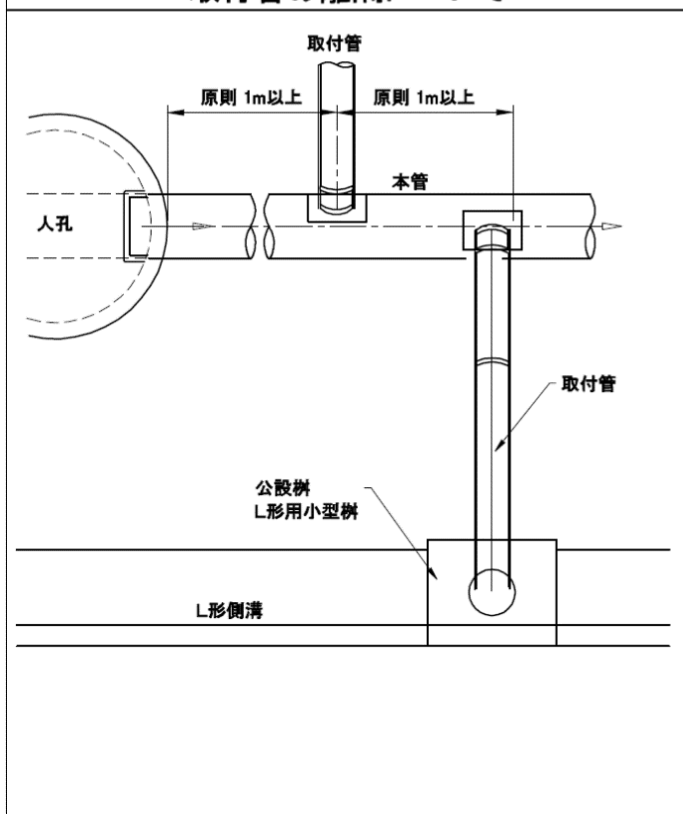


L形用公共汚水ます (底部有孔)

A4 : S=1/20

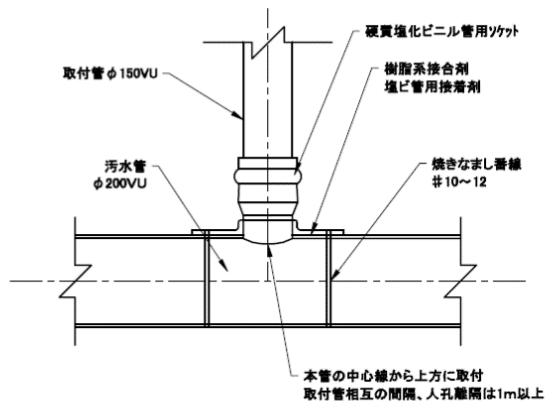


取付管の離隔について



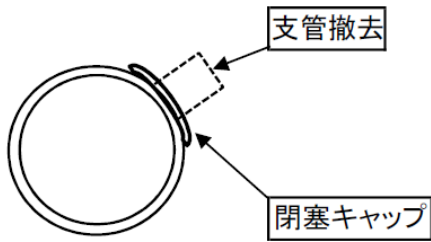
硬質塩化ビニル管支管標準取付図

本管が硬質塩化ビニル管の場合(取付角度90°)
 ※接続箇所に応じて80°支管にて施工。



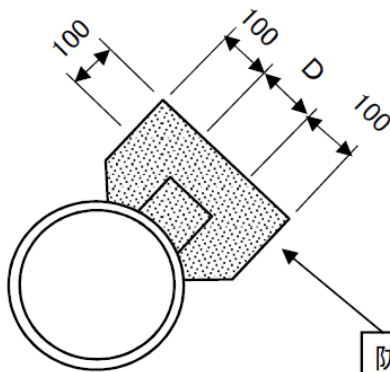
取付管撤去閉塞標準図

本管がHPの場合



①原則として、HP本管から支管を外し閉塞キャップにて穿孔穴を閉塞し、アンカーボルトもしくは焼きなまし番線で固定する。

φ 350以下

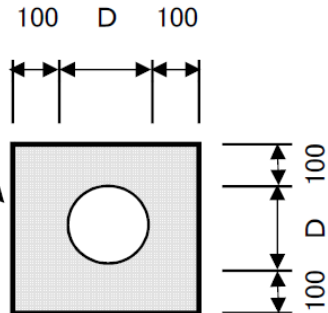
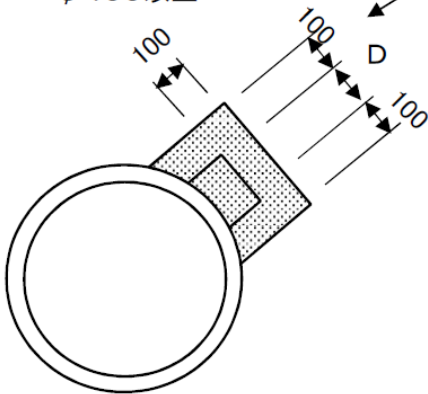


②やむを得ない理由があり、支管を外せない場合は、陶管用キャップを設置し防護モルタルを施工する(支管が陶管の場合)。

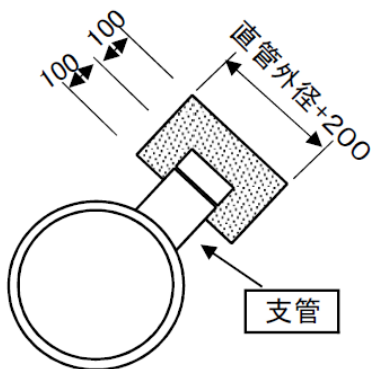
③やむを得ない理由があり、支管を外せない場合は、塩ビ管の蓋を設置し防護モルタルを施工する(支管がVU管の場合)。

防護モルタル
1:3

φ 400以上



本管がVUの場合

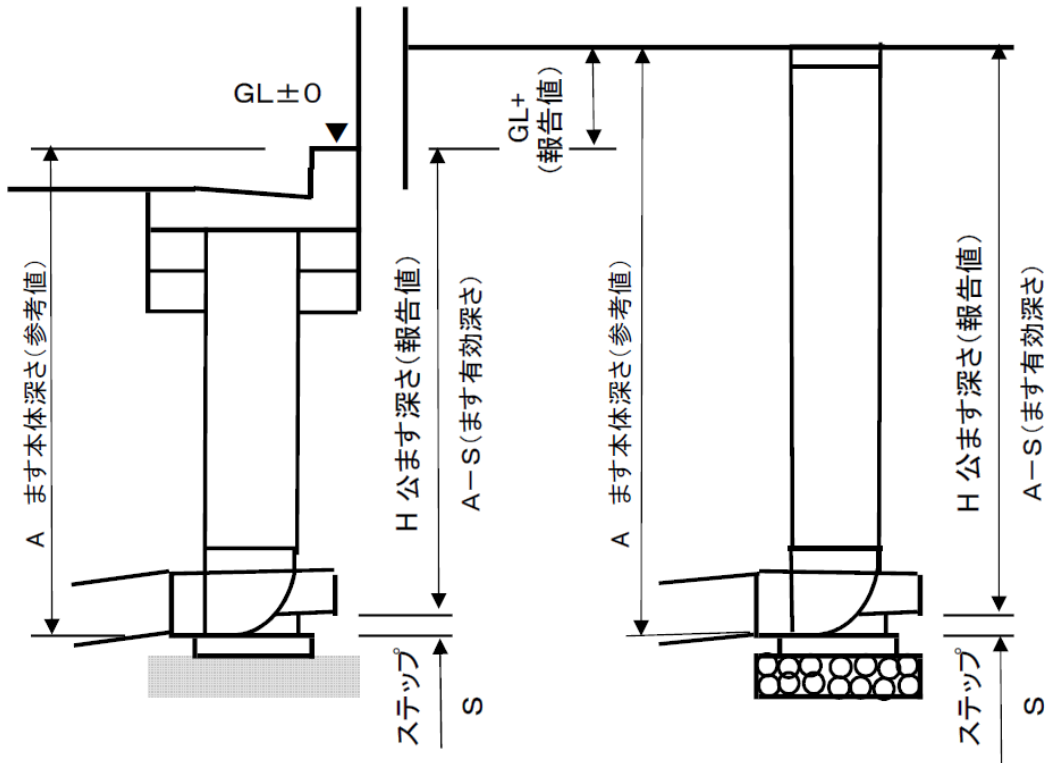


既設支管が外れないため、直管を15cm以内の位置で切断し塩ビ管の蓋を設置し防護モルタルを施工する。

注意事項

いずれの場合においても、施工内容の詳細が分かるよう、施工前、施工中、施工後等の写真を必ず撮影し提出すること。

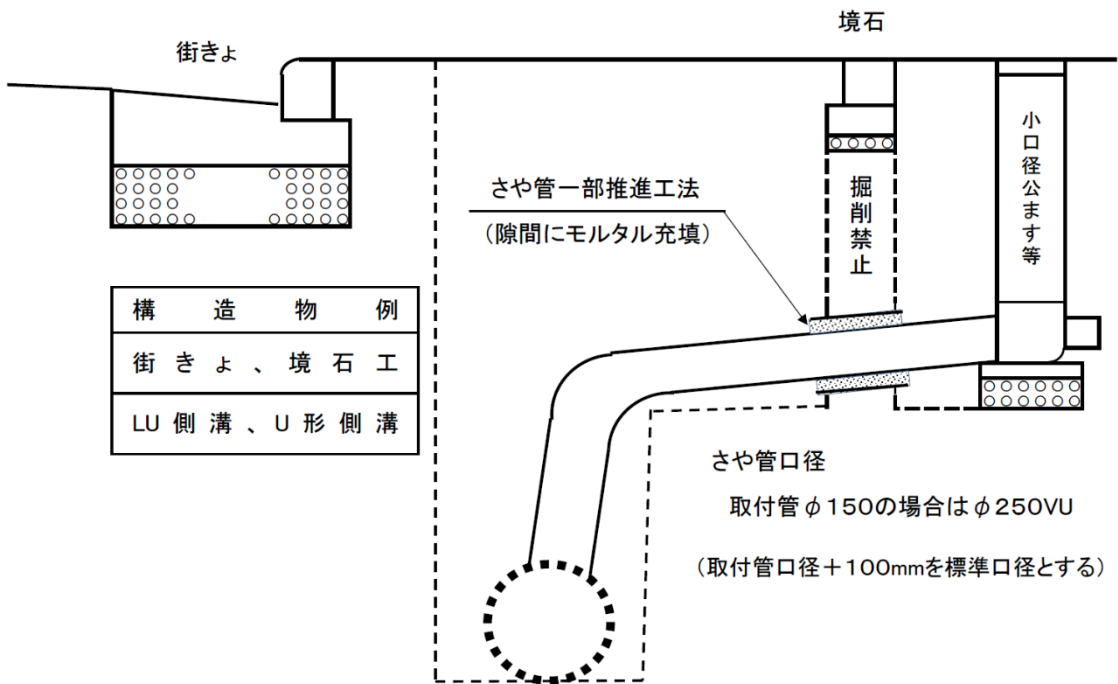
公共ます深さ測定要領



※公ます深さ H
L形天端から流入管管底までの
数値をL形公ますの深さとして
報告する。

※公ます深さ H(ます有効深さ)
ます天端から流入管管底までの数値
※GL+(GLからます天端までの数値)
(例)GL+0.30 ます深さH=1.30

取付管の構造物下越し標準施工例

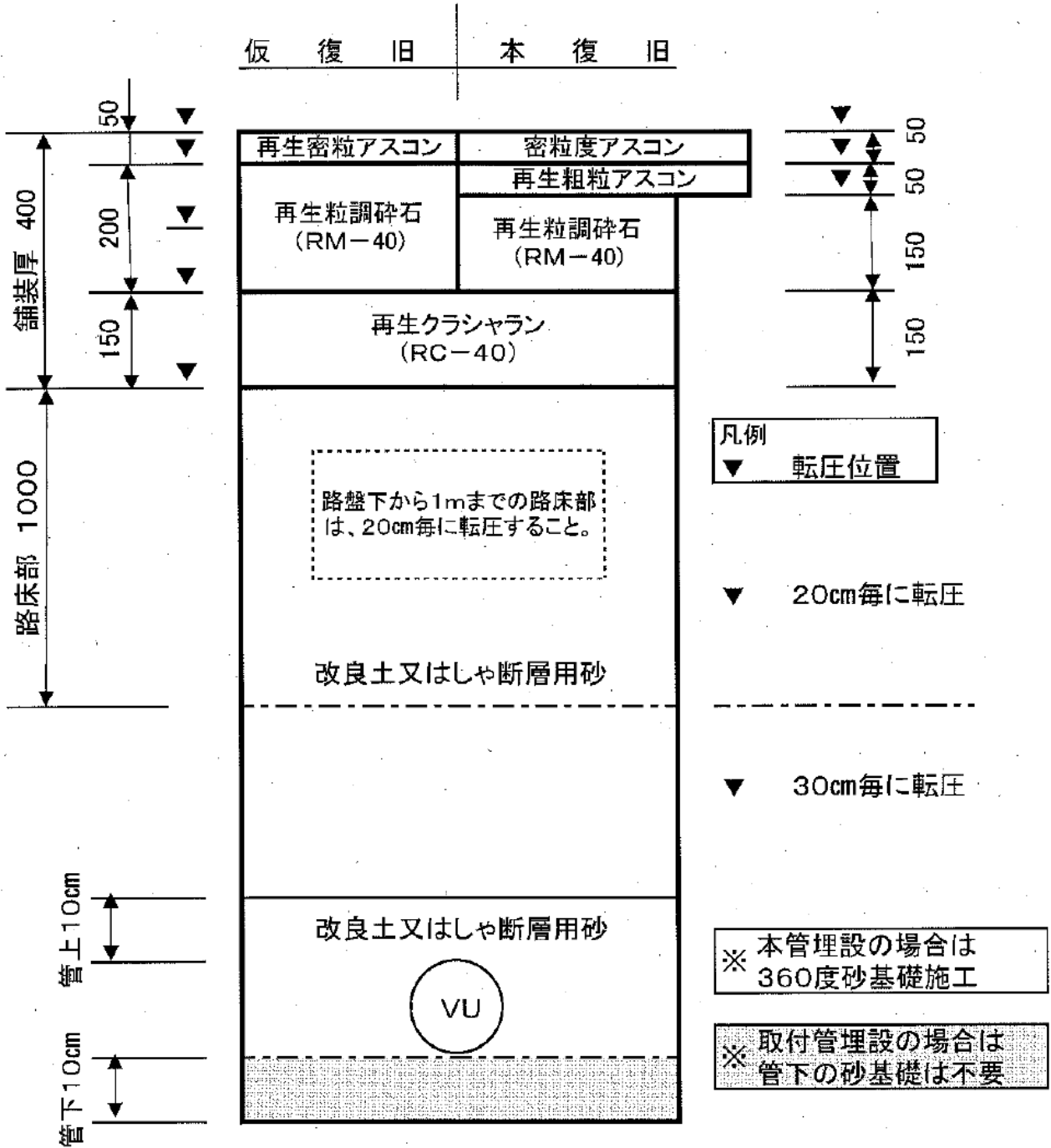


構 造 物 例
街 き よ 、 境 石 工
LU 側 溝 、 U 形 側 溝

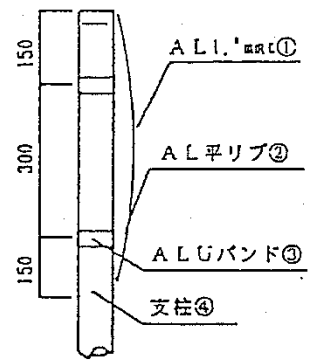
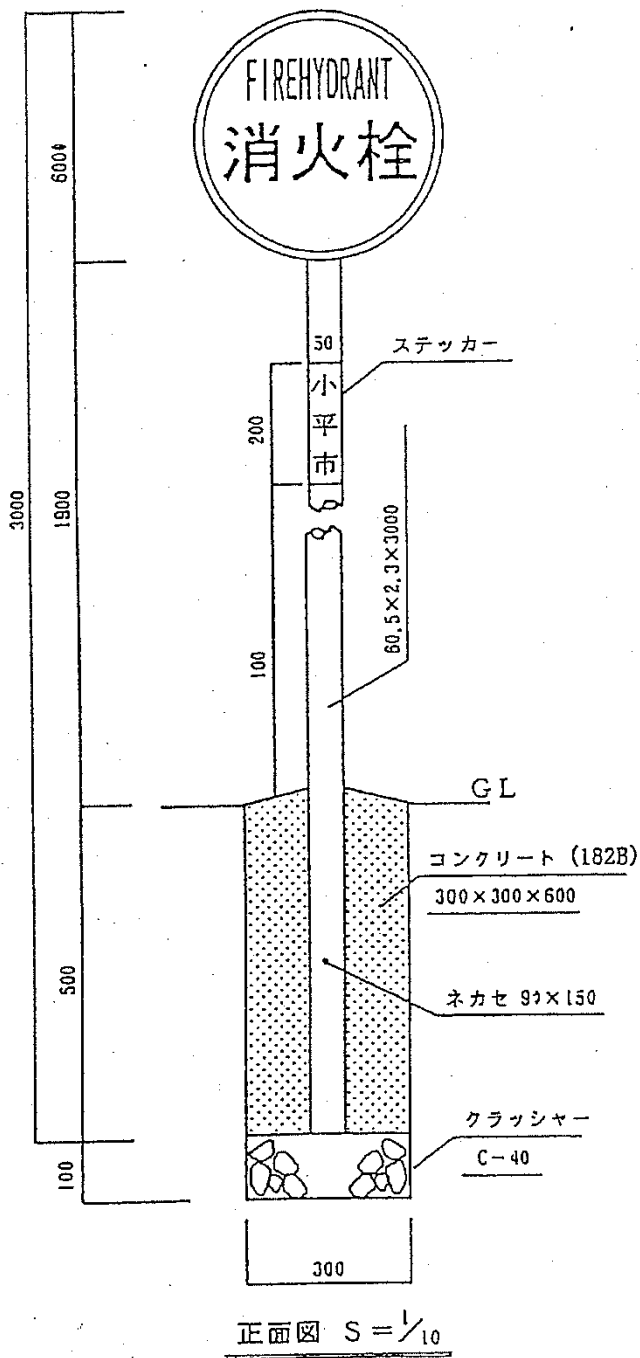
さや管口径
取付管φ150の場合はφ250VU
(取付管口径+100mmを標準口径とする)

埋め戻し転圧要領

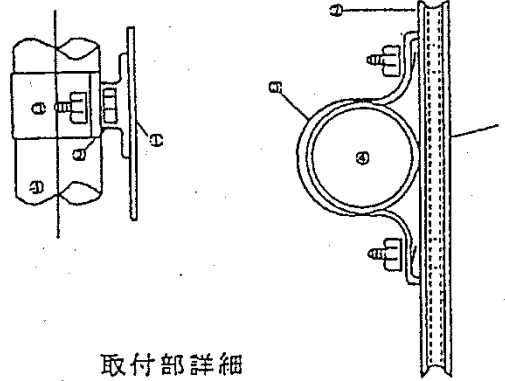
(例・車道舗装40型)



消防水利標識図（標準図）



側面図 $S = 1/10$



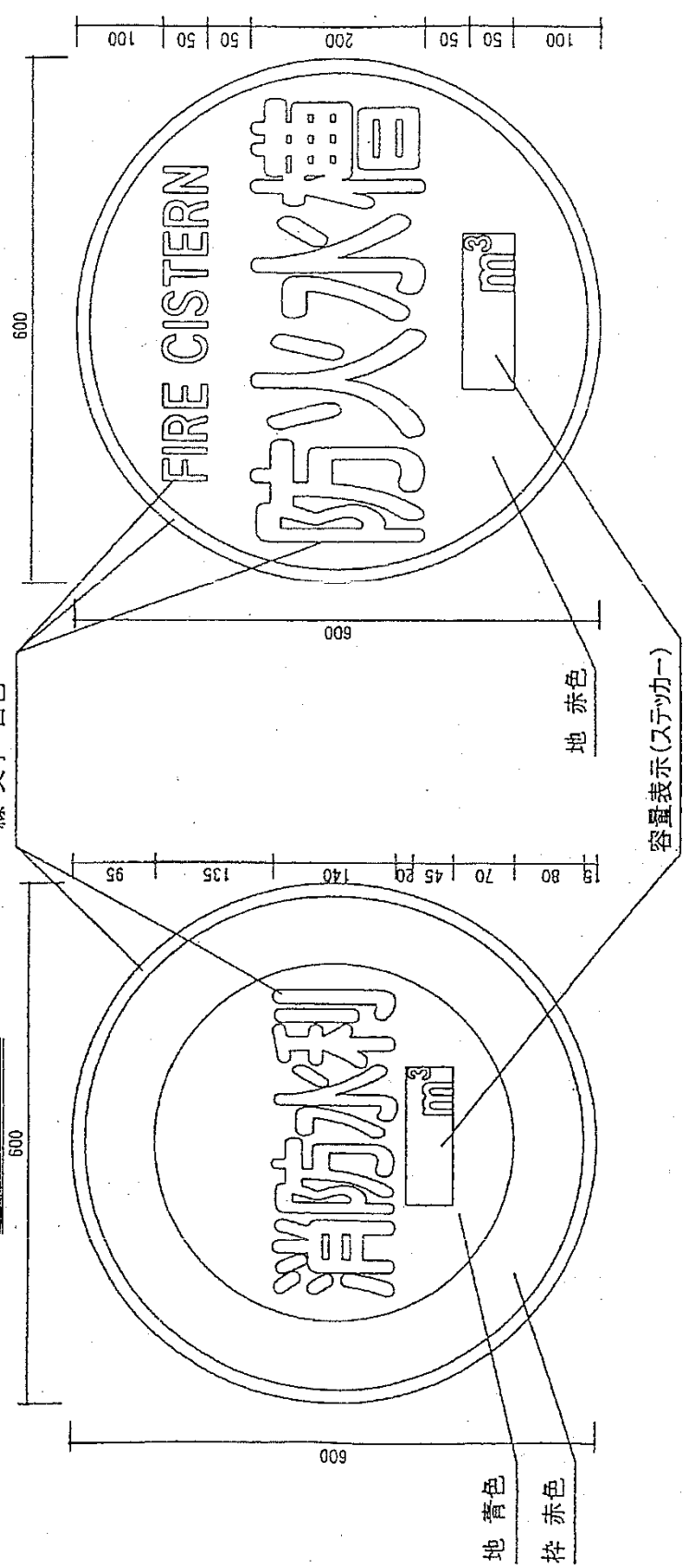
水利標識設計図

省令標識

事業主管理標識

統一標識

市管理標識



- 容量表示の仕様 (単位:mm)
- 1 ステッカーの大きさ (縦60×横150)
 - 2 文字の大きさ等 地-白色 文字-黒色
(数字:縦50×横20) (m³:縦50×横45)

単位 (mm)

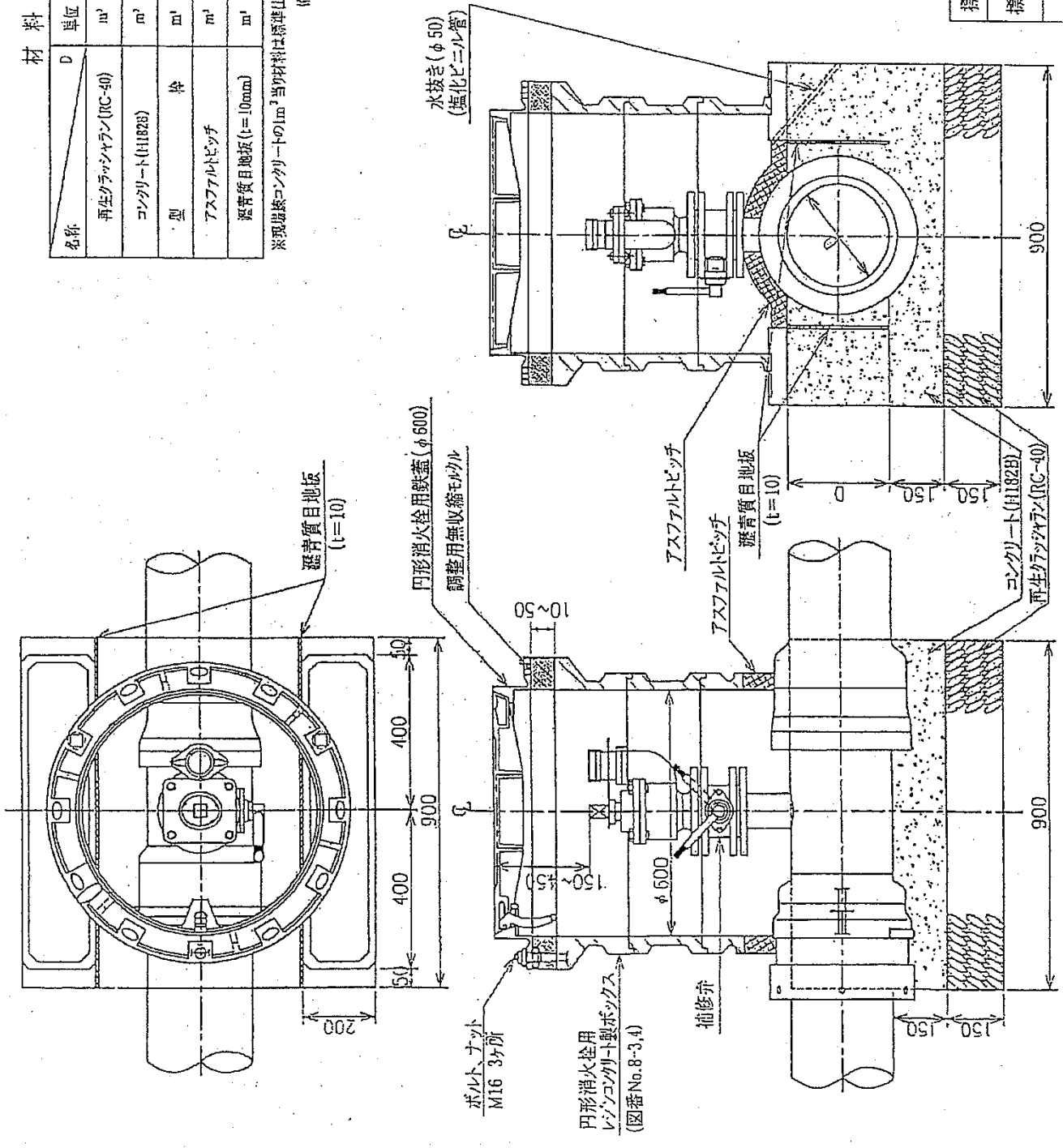
材料表

名称	D	単位	100	150	200	250
再生クワッチャラン (RC-40)		m ³	0.122	0.122	0.122	0.122
コンクリート (H182B)		m ³	0.216	0.256	0.296	0.336
型枠		m ²	1.483	1.644	1.796	1.942
アスファルトビッチ		m ²	0.002	0.002	0.002	0.002
遮音質目地板 (t=10mm)		m ²	0.212	0.304	0.396	0.489

※現場コンクリートの1m³当り材料は標準仕様書を参照のこと。

備考)

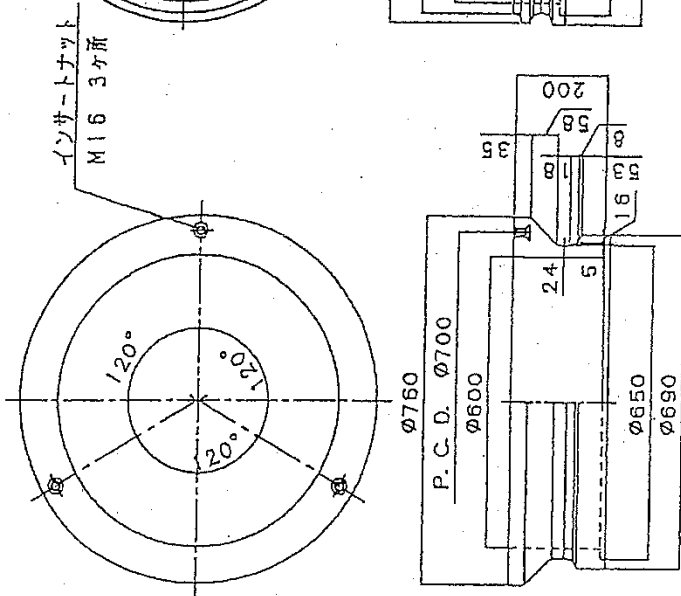
- 呼び径 (D)100~250に適用する。
- 基礎コンクリートは管頂まで打設した後、一定の養生期間をとる。
- 遮音質目地板は耐力垂直に入れる。
- 管径S11形、呼び径 (D)300、350については原註図番号8-2による。
- 底版と基礎コンクリートの間はモルタル等による不陸調整を行なう。
- 各部材の接合面には、断絶がないように接合材 (工ボキレン系やウレタン系) を全面盛付ける。
- 受給高さ調整部及びボルト・ナット部には、受給変形防止部材等を使用し受給の変形を防止する。また、将来のかさ上げに備へるには、ボルト・ナット及び受給変形防止部材を再利便できる措置を施すこと。(ボルトについては、かさ上げ時のみ対応できること。)
- 受給高さの調整部には無収縮モルタルを使用する。(ボルト・ナット及び受給変形防止部材に付着しないような措置を施す。)
- 無収縮モルタルの物性は、原註図番号No.8-4の行表の規定に適合するものとする。
- 調整高さが高い場合には調整リング併用により高さ調整を行う。この時、調整リングと上部壁の間はモルタルペースト等による不陸調整を行う。
- キャップ高さが150mm~450mmの間になるように補修弁と耐火管の間に調整弁を挿入して調整する。(調整に併用するボルト・ナットはSUS304又はSUS403とする。)
- 消火栓の階面表示 (赤色) は鉄蓋に張示してあるため不要とする。
- 水抜きは地下水位の高い場所には設置しない。



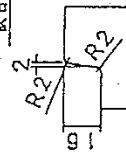
標準図番号	No.8
標準図名称	単口消火栓設置工 (75mm)

東京都水道局

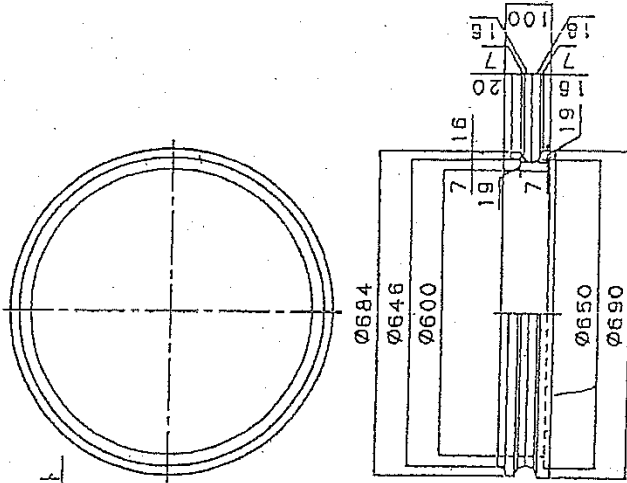
上部型 (H=200)



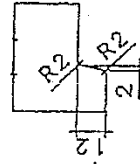
嵌合上部詳図



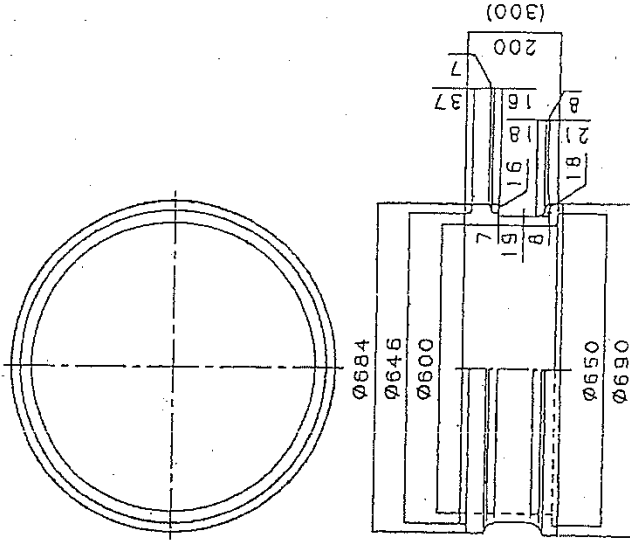
中部型 (H=100)



嵌合下部詳図



下部型 (H=200, 300)



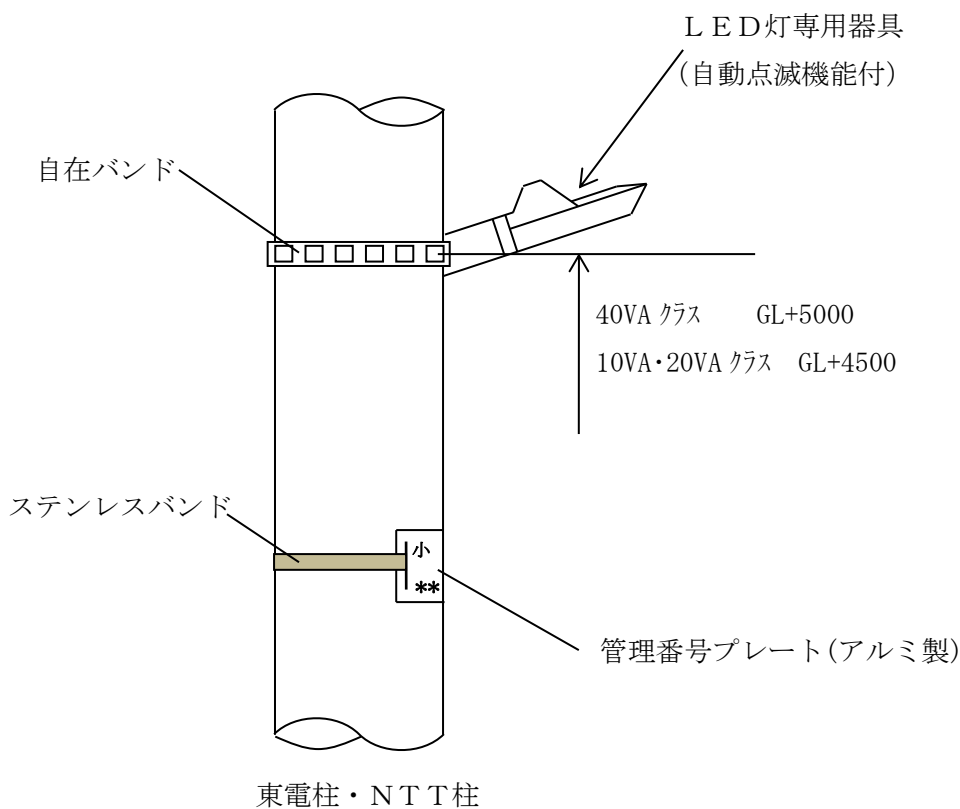
※ () 内数値はH=300用

備考) 1. 材質はレジンコンクリートとし
品質は図番深No. 9-4付表
の通りとする。

標準図番号	深No. 9-3
標準図名称	円形消火栓用 レジンコンクリート製ボックス
東京都水道局	

街路灯標準図（電柱共架式）

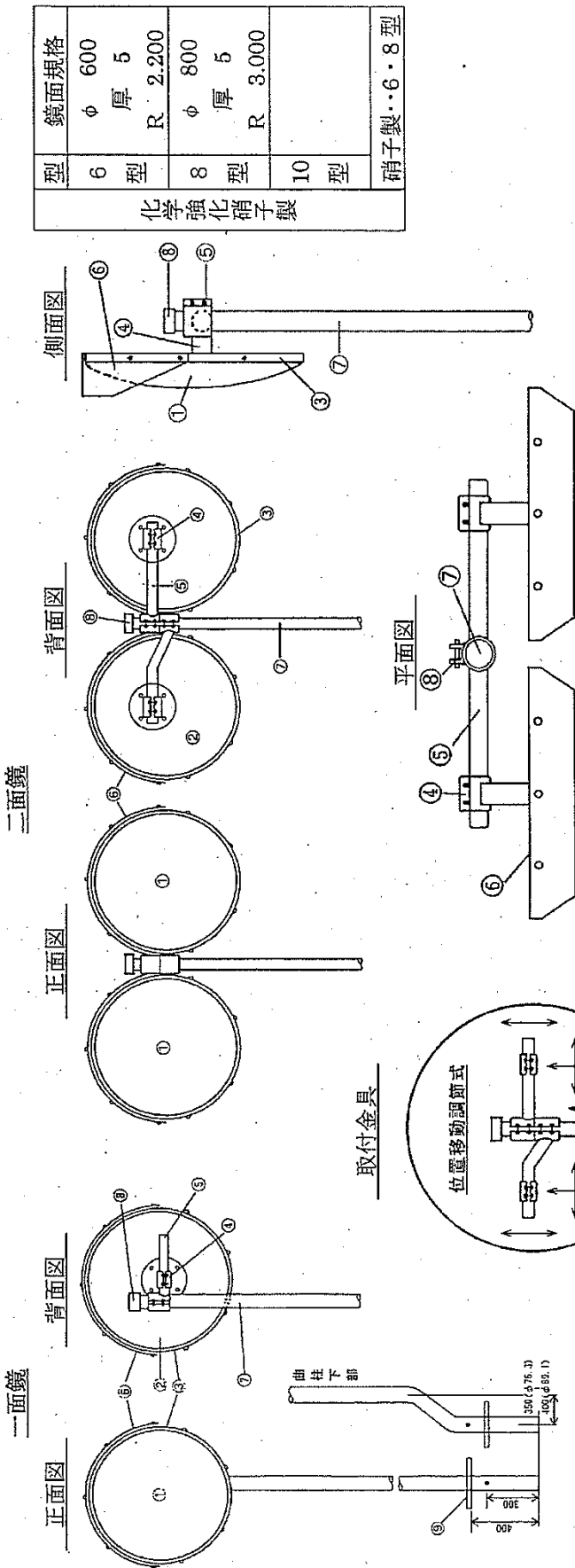
10VAクラス・20VAクラス・40VAクラス



- ※1 本図は東電柱、NTT柱への共架の場合とする。
- ※2 原則としてLED灯具は10VA相当のものとする。
- ※3 取付け高さは、10VA・20VAクラスはGL+4500mm、40VAクラスはGL+5000mmとする。ただし、他の共架物等により取付に支障がある場合は、担当の指導を受けること。
- ※4 管理プレートは担当から受領し、ステンレスバンド縁折とする。
- ※5 灯具は照度分布を確認した機種を選定するものとし、詳細については担当の指導を受けること。

丸型道路反射鏡 構造

二面鏡



部材表

No.	名称	材質	寸法	一面	二面
①	鏡面	化学強化硝子	各種サイズ	1	2
②	バックプレート	F R P - H	各種サイズ	1	2
③	取付金具	アルミニウム	各種サイズ	1	2
④	取付金具	STKR400/SS400	別図	1	2
⑤	取付金具	STKR400/SS400	別図	1	2
⑥	フー	R P	各種サイズ	1	2
⑦	支柱	S T K 4 0 0		1	1
⑧	キヤップ	合成ゴム	各種サイズ	1	1
⑨	補強鉄筋	S R 2 3 5	φ13×300	2	2

注1:「小平市」のステッカーを支柱に貼付する。

注2:小平市支給の管理プレートを支柱上部に取り付ける。

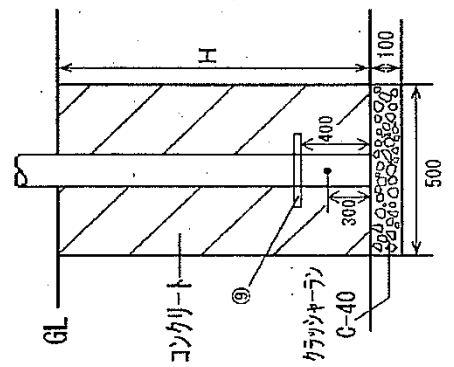
支柱規格(合成樹脂静電粉体付・下地亜鉛メッキ鋼管)
 φ76.3×3.2×4000 φ800 一面鏡及びφ600 一面鏡用
 φ39.1×3.2×4400 φ800 二面鏡及びφ600 二面鏡用

基本規格

φ600 一面鏡	500×500×900 (H)
φ600 二面鏡	500×500×1200 (H)
φ800 一面鏡	500×500×900 (H)
φ800 二面鏡	500×500×1200 (H)

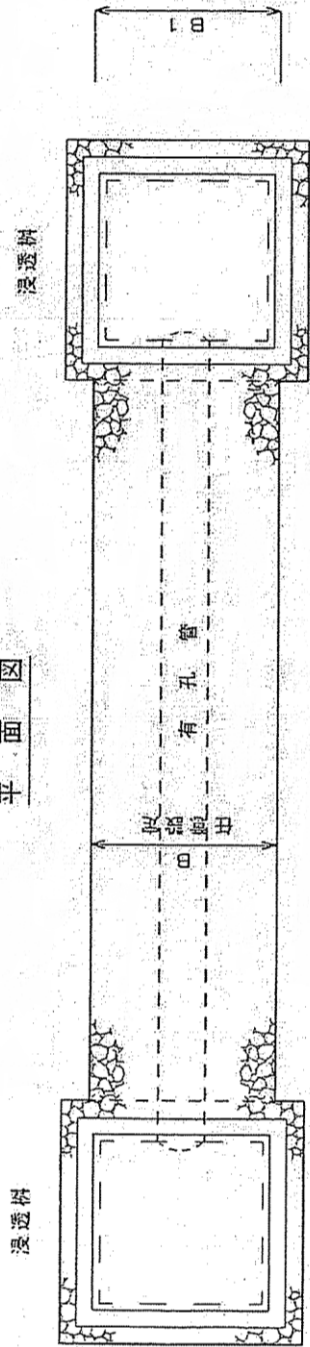
※型枠材はビニールとする

基礎仕様



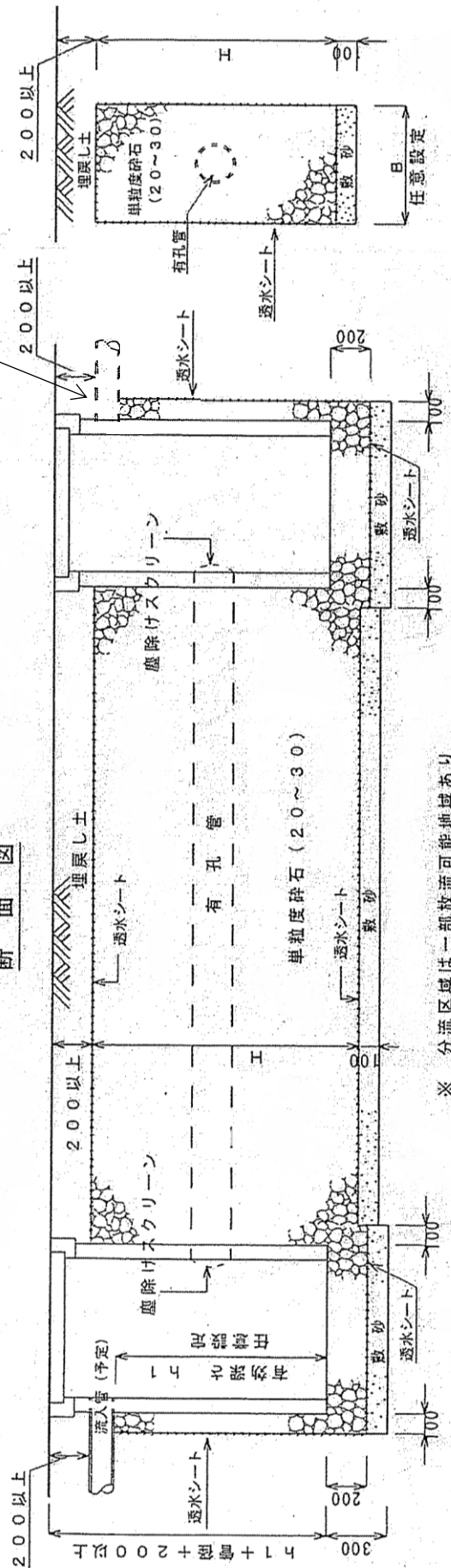
雨水浸透柵・浸透トレンチ標準構造図

平面図



トレンチ長
計算式から

断面図



オーバーフロー管 (公ますへ)
※流出可能な場合

オーバーフロー管の管底は、
流入管の管底よりも高い
位置に接続すること。

※ 分流区域は一部放流可能地域あり